

第2章 子どもと子育て家庭をめぐる状況

(第 2 章 表紙裏)

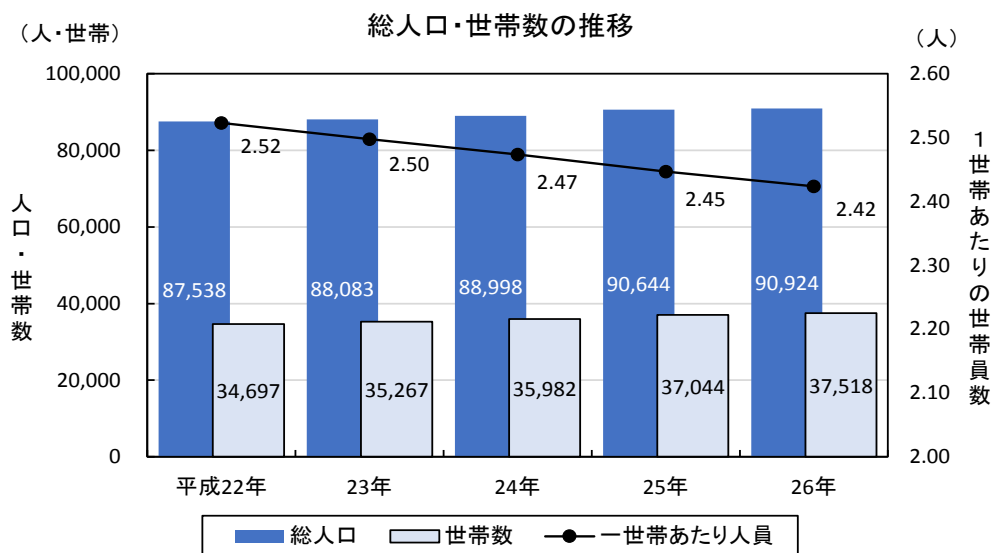
1. 市の現状

(1) 総人口・世帯数の推移

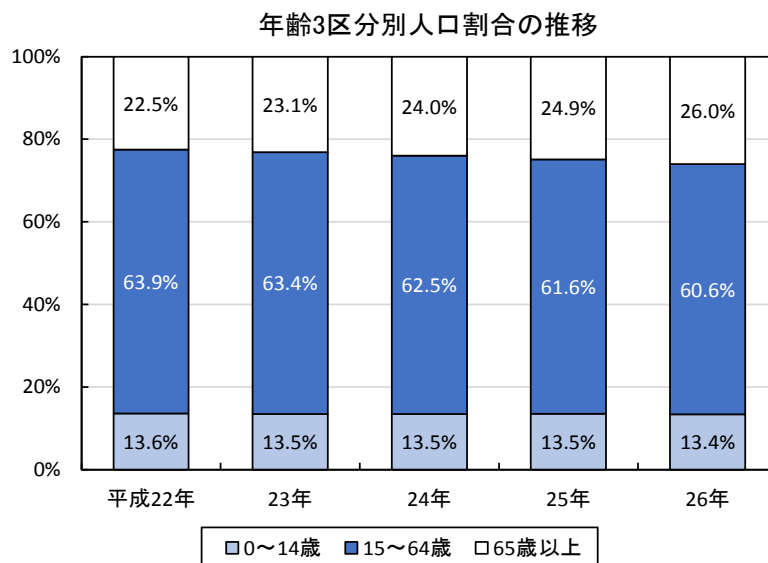
平成26年4月1日現在の市の総人口は90,924人、世帯数は37,518世帯となり、総人口、世帯数ともに増加傾向にある一方で、一世帯あたりの人員は減少しています。

また、年齢3区分別の人口割合で見ると0～14歳の子どもの人口割合は横ばいで推移しています。

※平成24年7月9日に改正住民基本台帳法が施行されたことに伴い、平成25年と平成26年の人口には外国人を含めています。



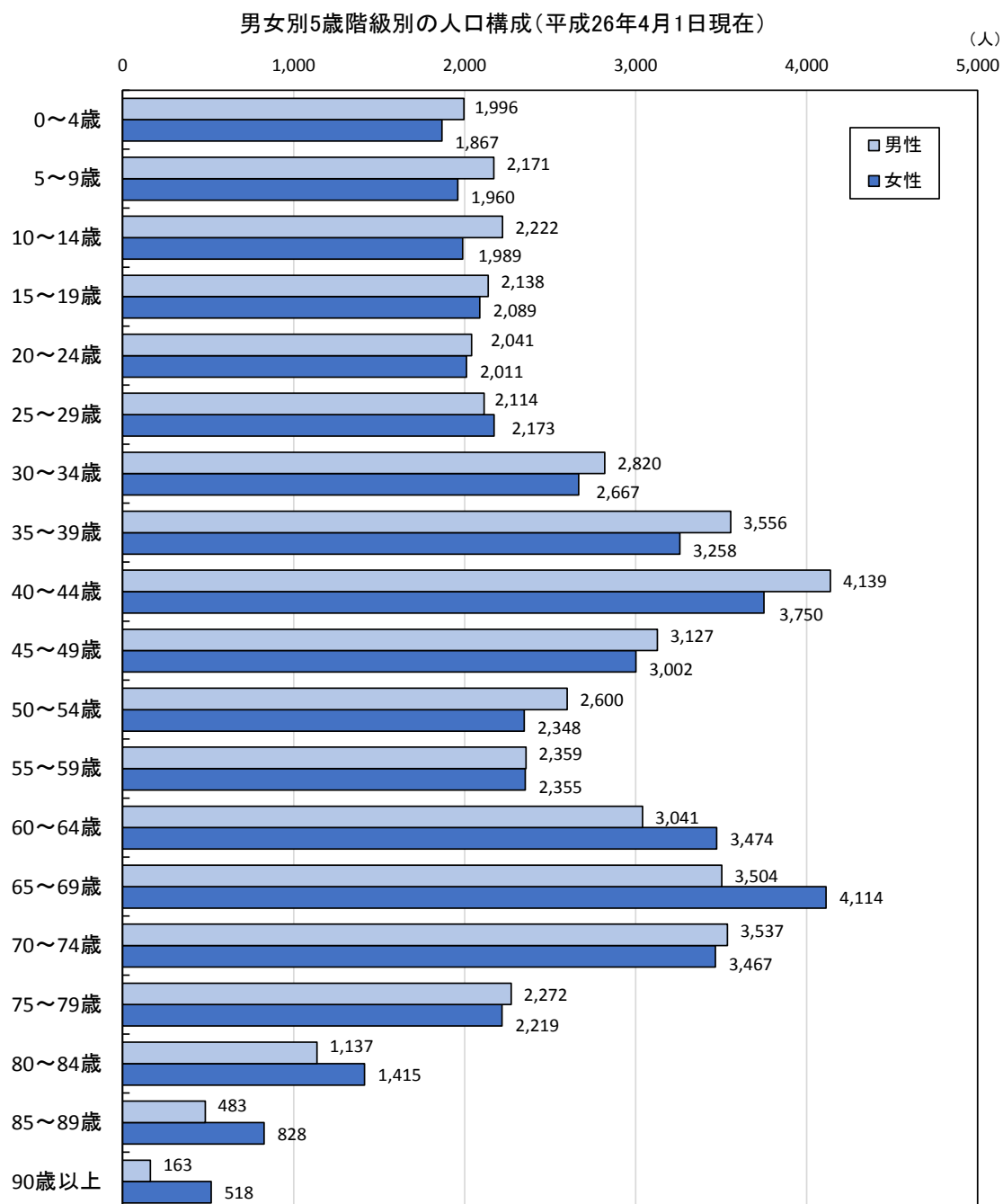
資料：住民基本台帳（各年4月1日）



資料：住民基本台帳（各年4月1日）

(2) 男女別5歳階級別の人口構成

平成26年4月1日現在の市の男女別5歳階級別の人口構成をみると、40～44歳、次いで65～69歳の年齢層で人口が多く、29歳以下の若い世代の人口が少なくなっています。

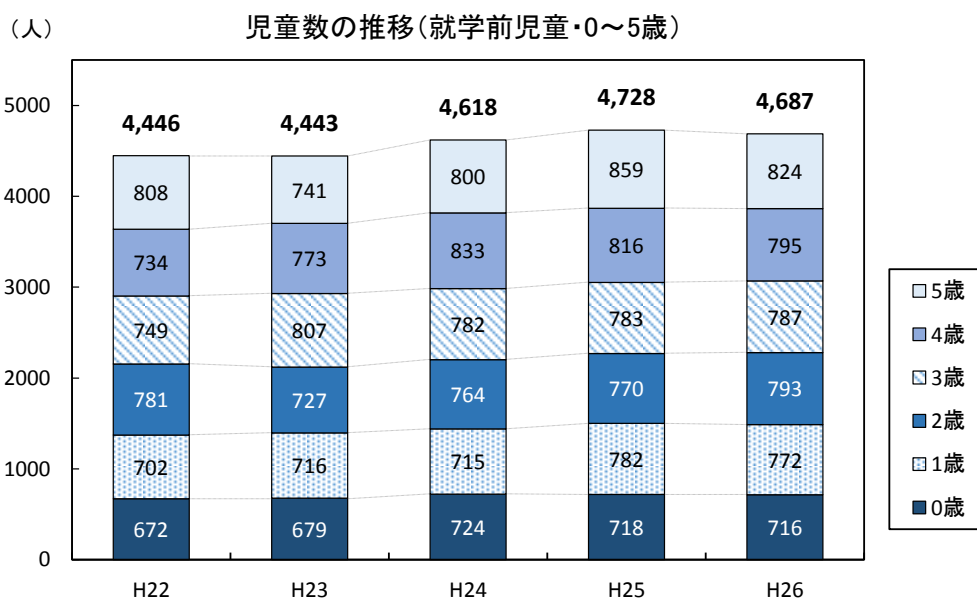


資料：住民基本台帳

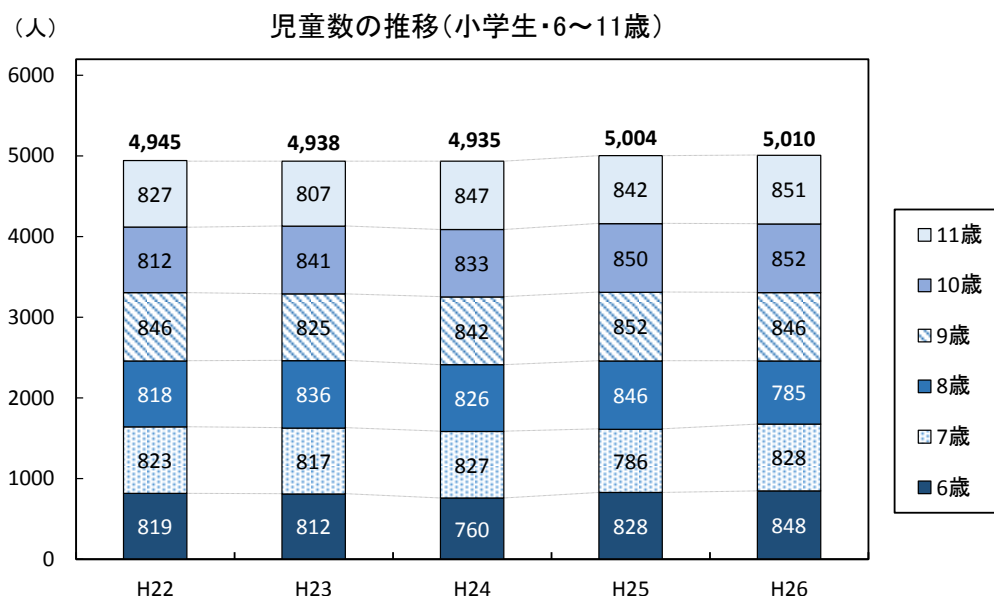
(3) 児童人口（児童数）の推移

平成23年から25年にかけて、大規模な住宅開発などによる人口増加などに伴い、児童数も増加しました。特に0～5歳の増加が大きくなっていましたが、平成26年に入ると若干減少に転じています。

※平成24年7月9日に改正住民基本台帳法が施行されたことに伴い、平成25年と平成26年の人口には外国人を含めています。



資料：住民基本台帳（各年4月1日）

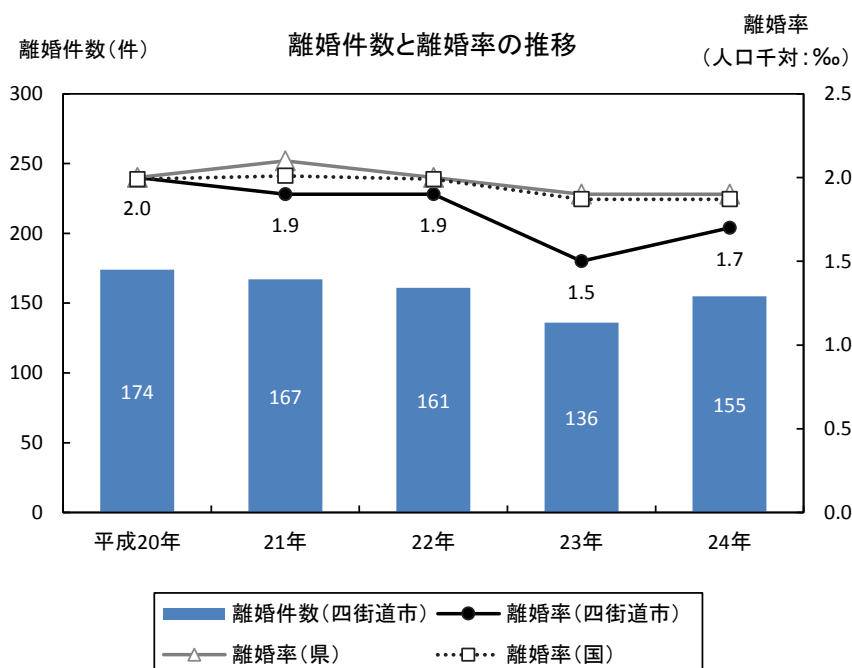
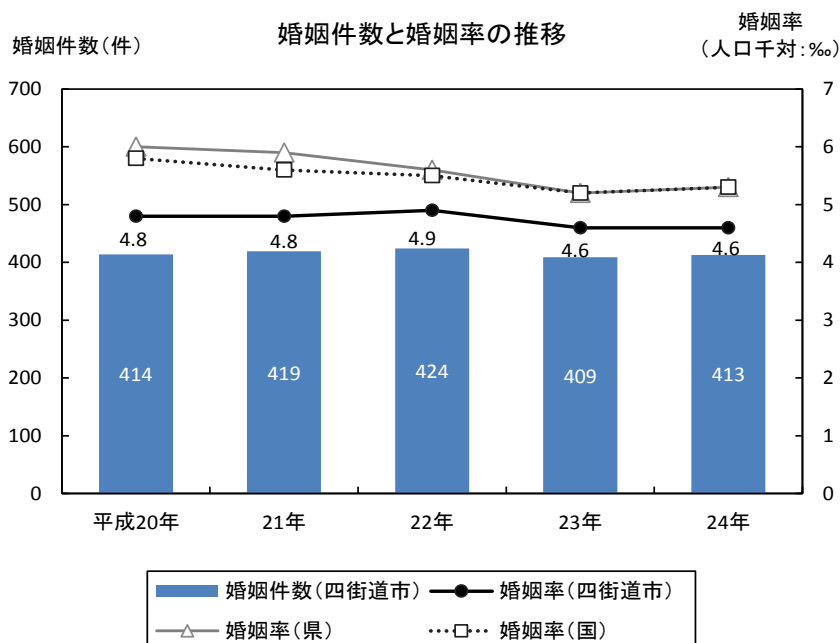


資料：住民基本台帳（各年4月1日）

(4) 婚姻率・離婚率

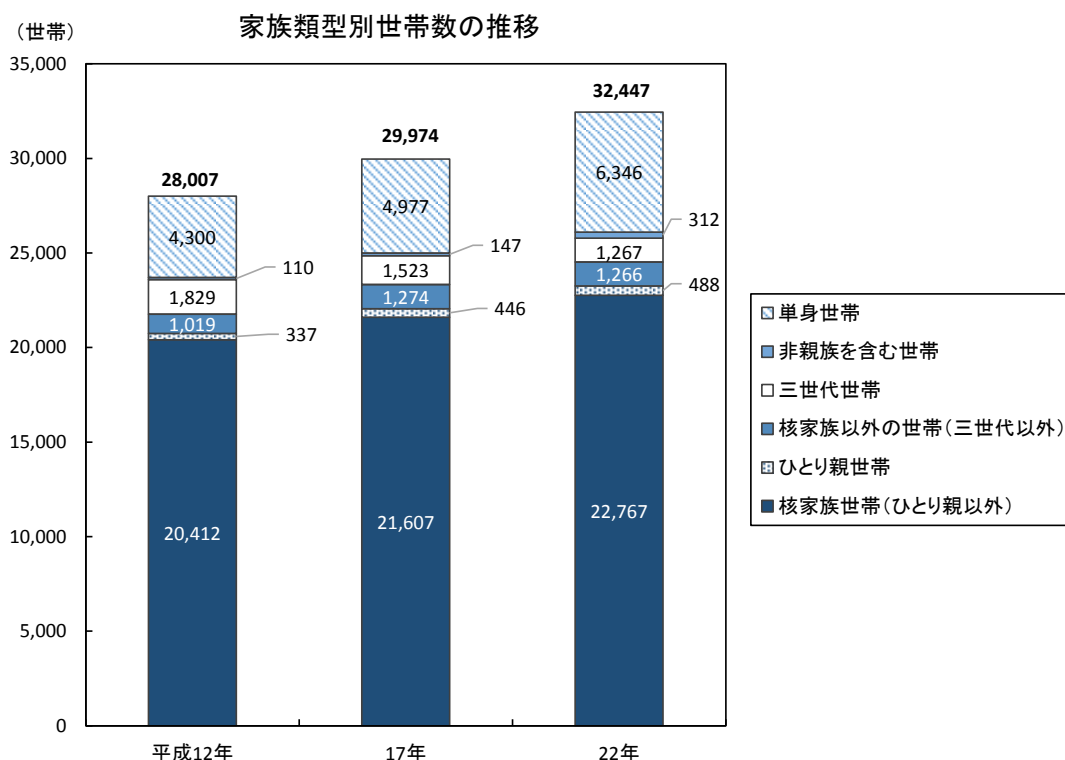
婚姻率は県・国より低く、その推移をみると低下傾向にあります。婚姻件数もゆるやかな減少傾向にあり、ここ数年は410～420件前後で推移しています。

一方、離婚率の推移をみると、婚姻率と同様、県・国より低く、1.5～2.0%の範囲で推移しています。離婚件数は年によってばらつきがあり、平成23年まで減少傾向にありましたが、平成24年は155件に増加しています。

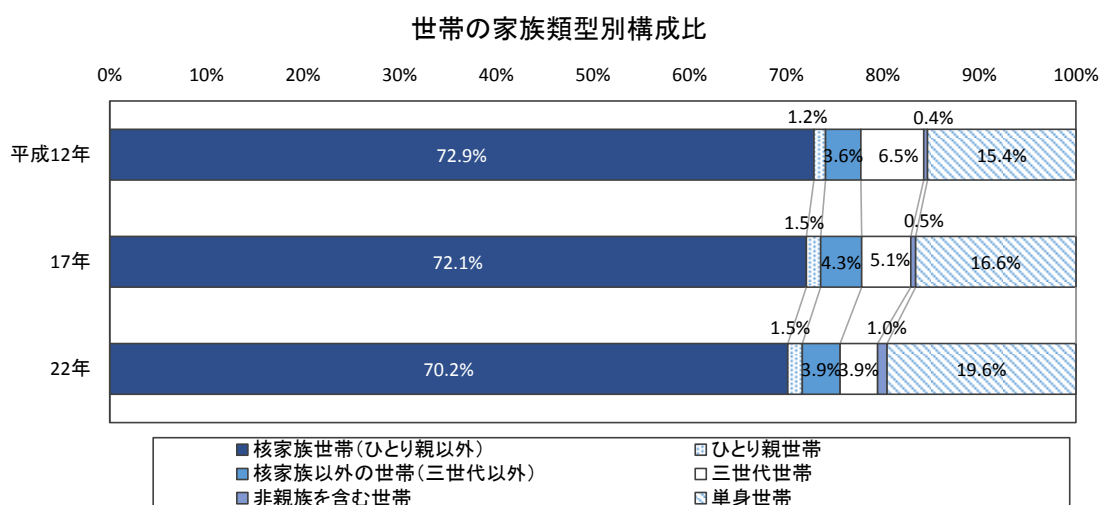


(5) 家族類型別世帯数の推移

家族類型別世帯数の推移をみると、総世帯数が増加する中で核家族世帯（ひとり親以外）、ひとり親世帯、単身世帯が増加しています。構成比では、三世帯世帯や核家族世帯（ひとり親以外）の比率が下がり、単身世帯の比率が高まっています。



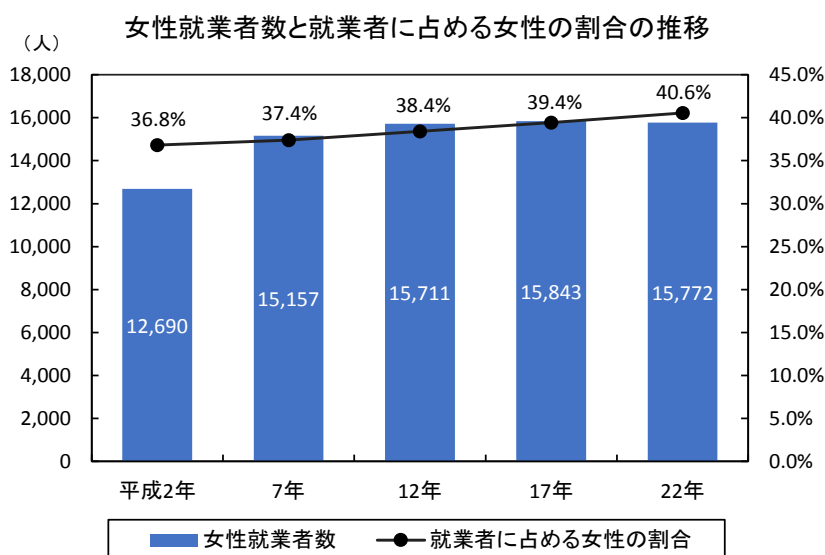
資料：国勢調査



資料：国勢調査

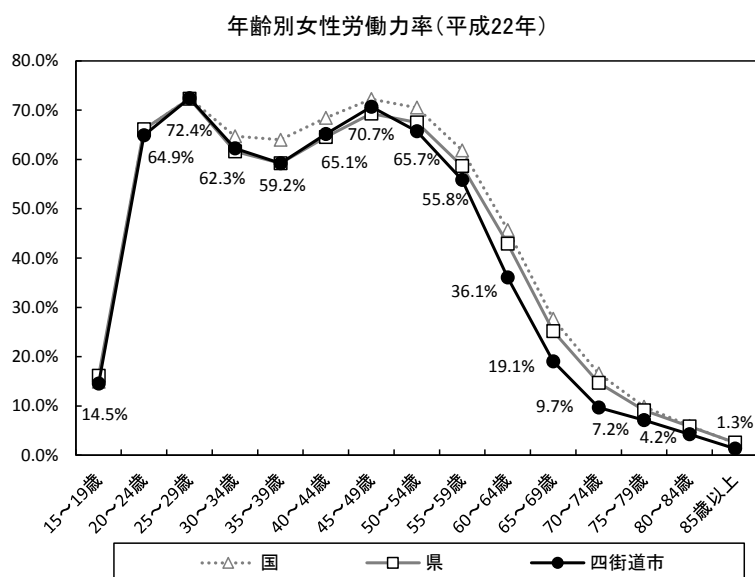
(6) 女性の就業状況

本市の女性就業者数（15歳以上）は、平成2年から平成7年にかけて大きく増加し、それ以降は微増で推移してきました。平成22年に女性の就業者数は減少しましたが、全就業者も減少しているため、就業者に占める女性の割合は40.6%と過去最高に達しています。



資料：国勢調査

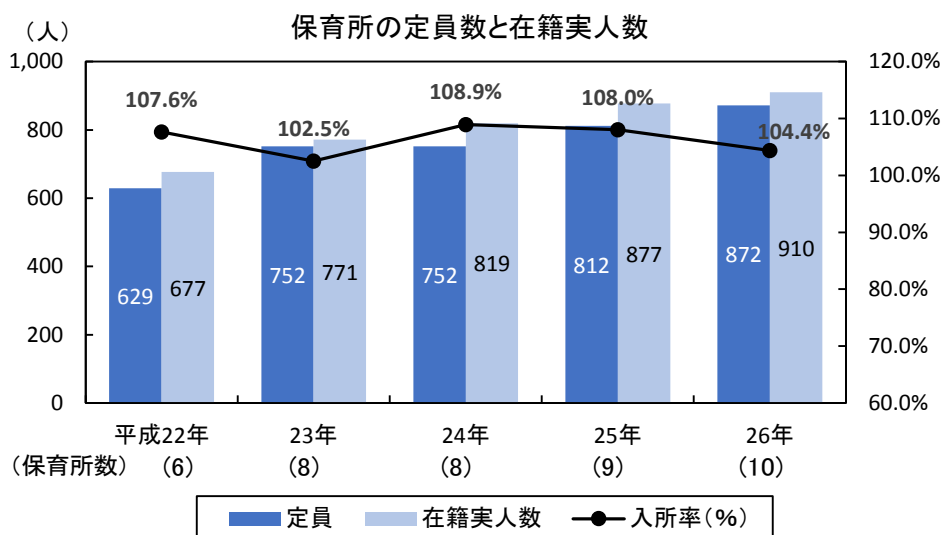
平成22年の女性労働力率を年齢別にみると、20～24歳64.9%、25～29歳72.4%と20歳代をピークに低下し、35～39歳は59.2%まで落ち込んでいます。その後、再び上昇に転じ、45～49歳の70.7%をピークに低下するM字型を描いています。県・国と比べると、35歳以上の年齢層において低い数値を示していることが特徴です。



資料：国勢調査

(7) 保育所の状況

市内の保育所（認定こども園を含む）は、平成26年4月1日現在で10か所（公立2か所、私立8か所）、定員は872人で、入所率は104.4%となっています。



資料：こども保育課（各年4月1日）

年齢別入所児童数の推移をみると、保育所等の新設により全年齢で増加していますが、一方では待機児童についても増加傾向にあることがうかがえます。

保育所の状況

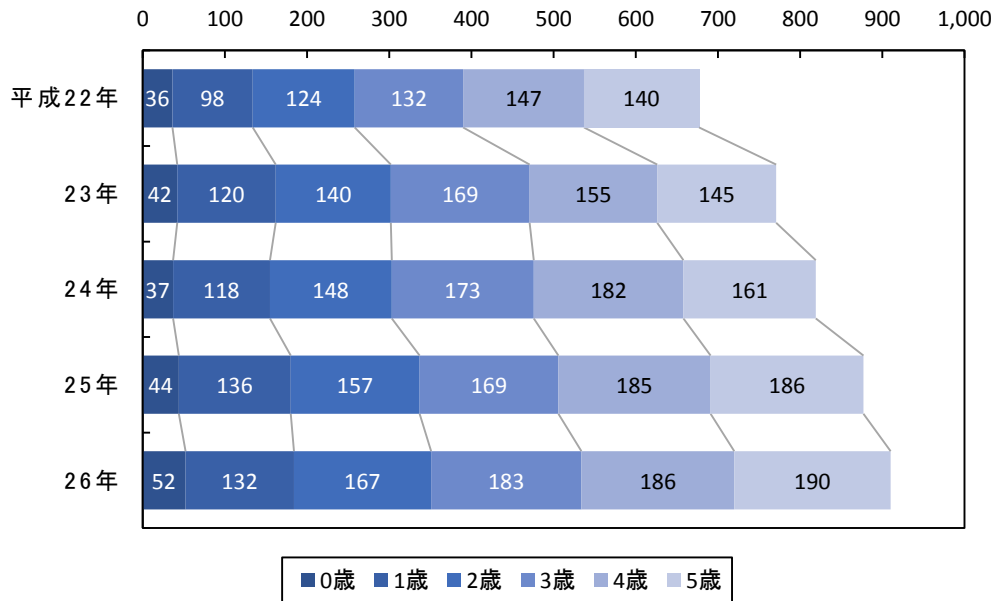
（単位：か所、人）

	保育所数		定員数	在園児数						
	公立	私立		総数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
平成22年	2	4	629	677	36	98	124	132	147	140
平成23年	2	6	752	771	42	120	140	169	155	145
平成24年	2	6	752	819	37	118	148	173	182	161
平成25年	2	7	812	877	44	136	157	169	185	186
平成26年	2	8	872	910	52	132	167	183	186	190

資料：こども保育課（各年4月1日）

年齢別入所児童数の推移

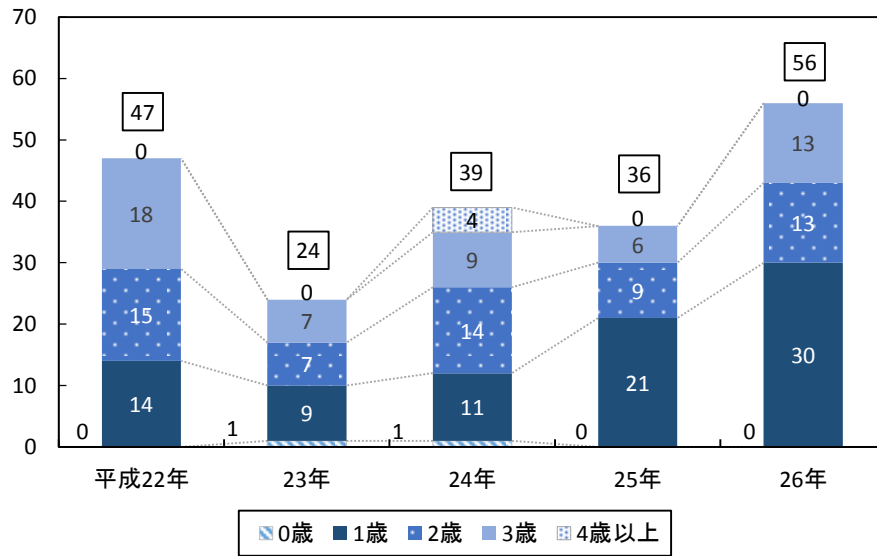
(人)



資料：こども保育課（各年4月1日）

待機児童数の推移

(人)



資料：こども保育課（各年4月1日）

(9) 小中学校の状況

市内の小中学校は12校で、平成26年5月1日現在の児童数は4,947人となっています。また、市内の中学校は5校で、平成26年5月1日現在の生徒数は2,322人となっています。小学校・中学校ともに児童生徒数はほぼ横ばいで推移しています。

小学校・中学校の状況 (単位:校、人、学級)

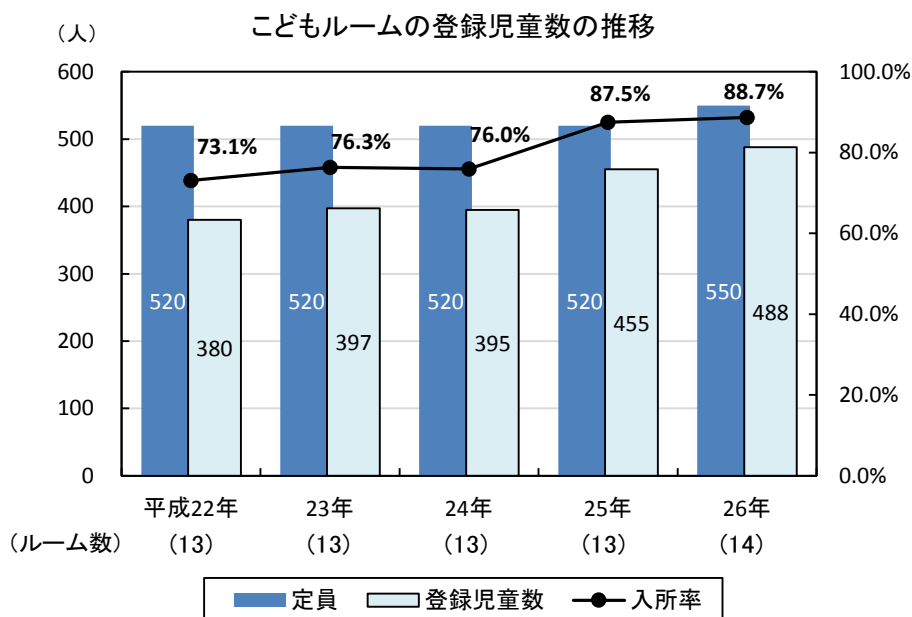
	小学校			中学校		
	学校数	児童数	学級数	学校数	生徒数	学級数
平成22年	12	4,925	190(26)	5	2,327	76(9)
平成23年	12	4,940	190(26)	5	2,340	78(9)
平成24年	12	4,941	192(28)	5	2,306	77(9)
平成25年	12	4,939	194(28)	5	2,338	80(10)
平成26年	12	4,947	198(29)	5	2,322	78(10)

資料：学校基本調査、教育委員会（各年5月1日）

※学級数の（）は特別支援学級の内数

(10) こどもルームの状況

こどもルームでは、保護者が仕事や看護などのために昼間家庭で保育できない小学生（全学年）を対象に、放課後や学校休業日（夏季等における長期休業期間を含む）に遊びや生活の場を提供しています。平成26年4月にみそら小学校敷地内に新設したことにより、市内全小学校敷地内にこどもルームが整備され、平成26年4月1日現在、14ルーム、定員550人となっています。登録児童数は増加傾向にあり、入所率は上昇しています。

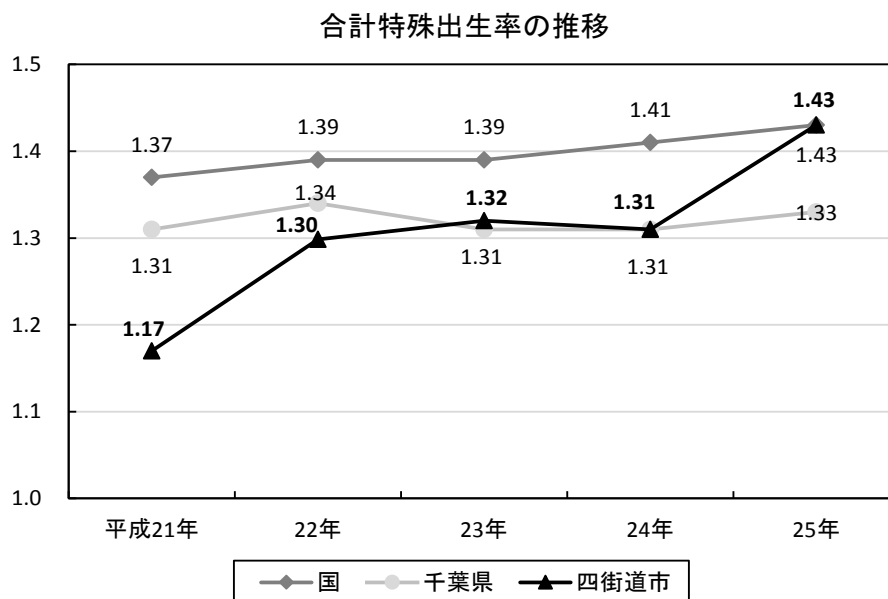


資料：こども保育課（各年4月1日）

(11) 母子保健関連

○合計特殊出生率の推移

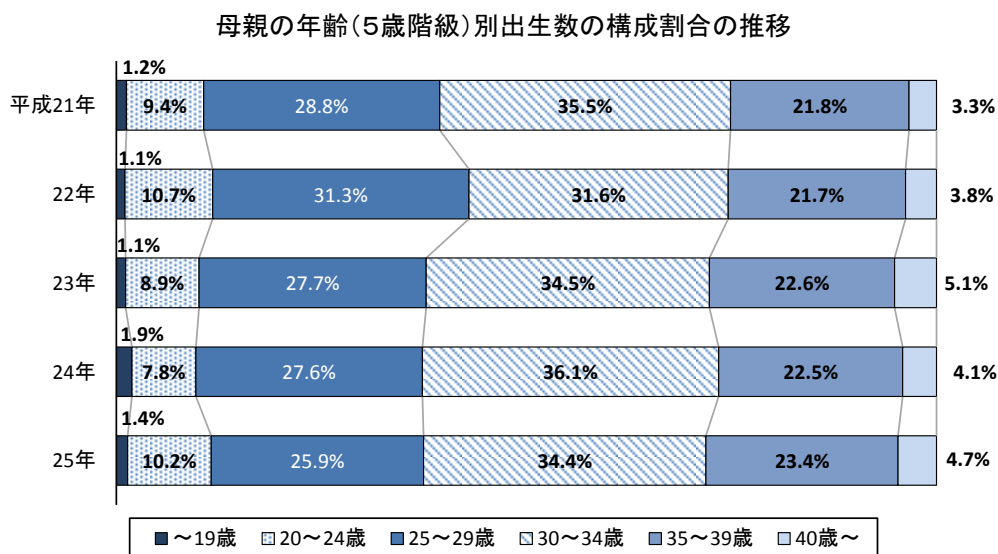
一人の女性が生涯に生む子どもの数を示す合計特殊出生率は、県は国を下回っており、本市は平成22年まで県よりもさらに低い水準で推移していましたが、平成23年以降上昇傾向が見られ、平成25年は1.43となり、国と同水準となっています。



資料：人口動態統計

○出生時の母親の年齢

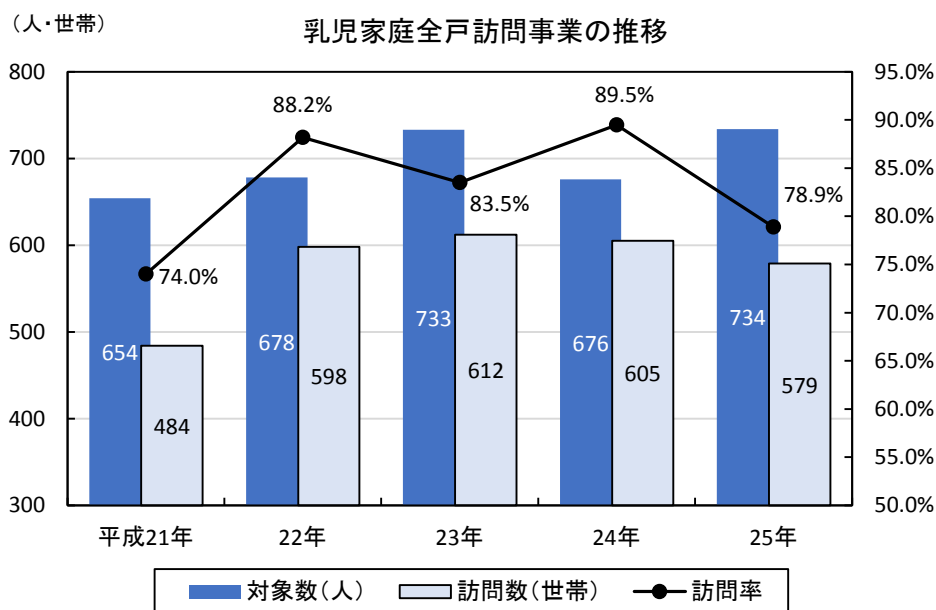
出生時の母親の年齢を5歳階級別にみると、近年は30～34歳、25～29歳、35～39歳の順に多いという傾向が続いています。長期的な傾向として、晩婚化などによる高齢出産が増加傾向にあります。



資料：千葉県衛生統計年報

○乳児家庭全戸訪問事業の実施状況

母親の子育てに対する不安を解消し、健全な子どもを育てることを支援する目的で、生後4か月までを対象とした乳児家庭全戸訪問（こんにちは赤ちゃん）事業を実施しており、平成23年度 83.5%、平成24年度 89.5%、平成25年度 78.9%と8～9割程度で推移しています。

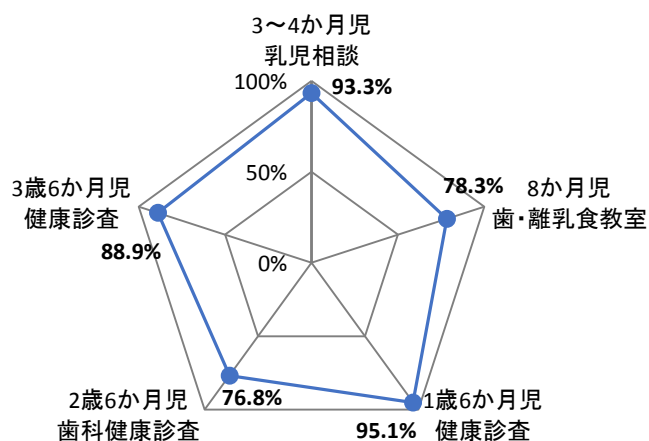


資料：健康増進課

○乳幼児健康診査等の実施状況

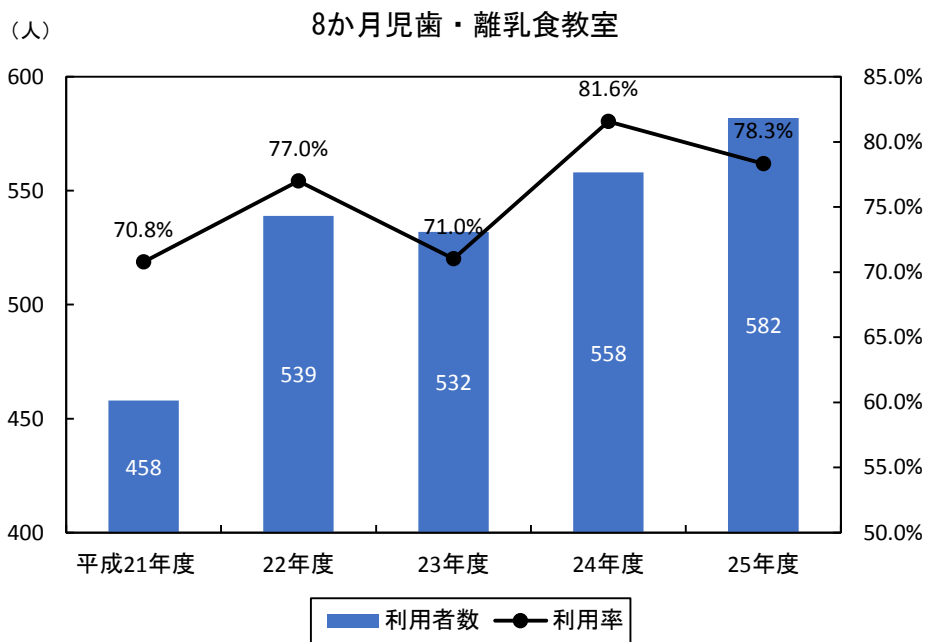
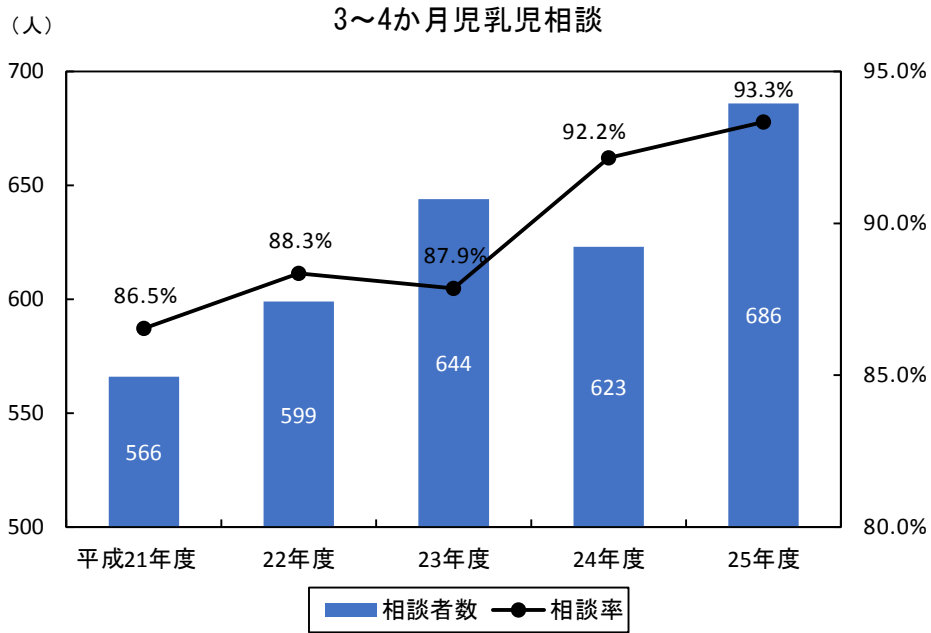
平成25年度の乳幼児健康診査等の受診率は、1歳6か月児健康診査が95.1%と最も高く、次いで3～4か月児乳児相談93.3%、3歳6か月児健康診査88.9%、8か月児歯・離乳食教室78.3%、2歳6か月児歯科健康診査76.8%となっています。

乳幼児健康診査等の受診率(平成25年度)



＜3～4か月児乳児相談、8か月児歯・離乳食教室＞

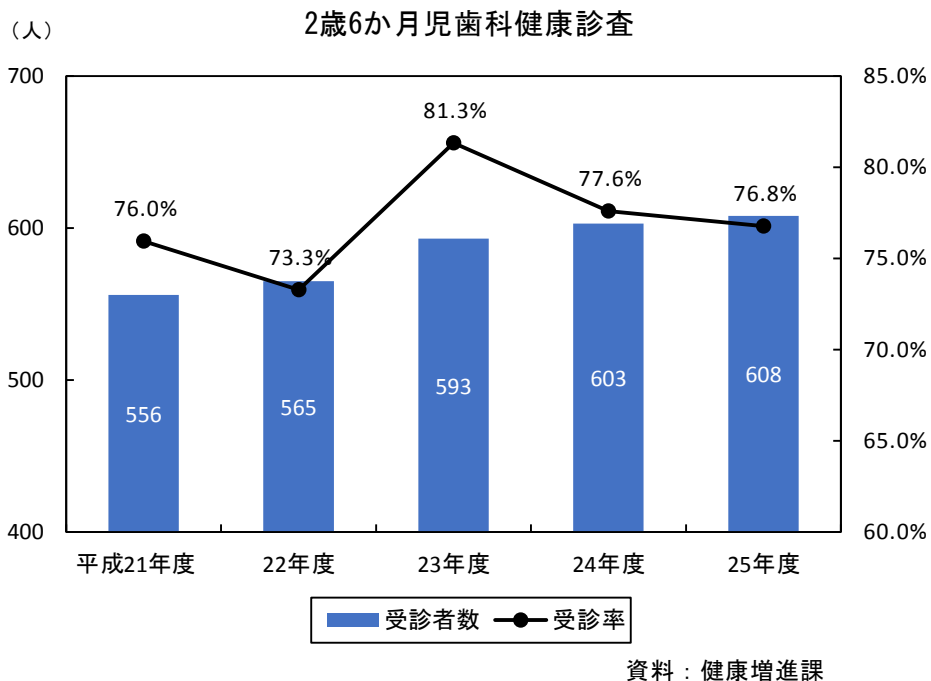
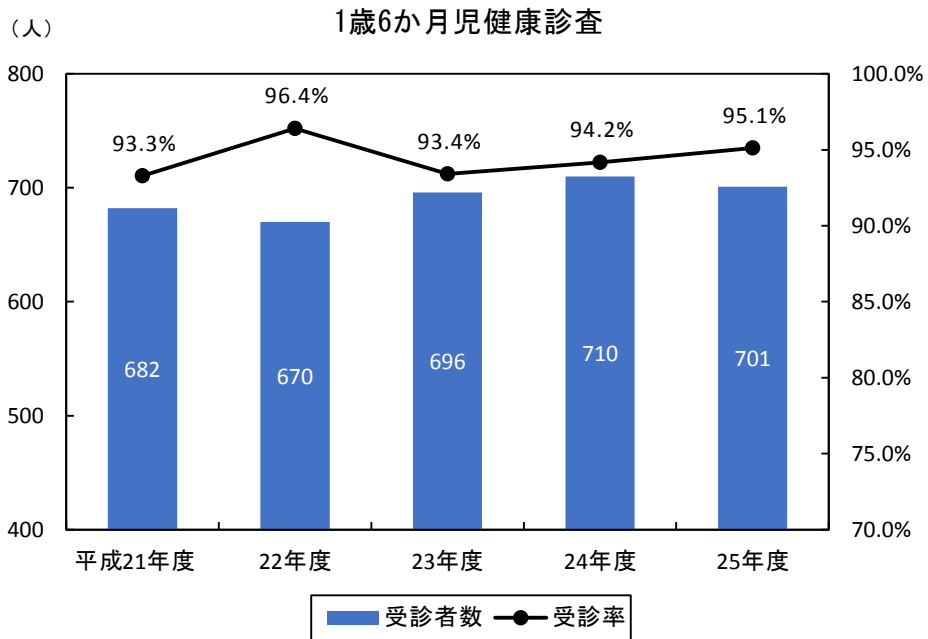
3～4か月児乳児相談や8か月児歯・離乳食教室は、相談者数はばらつきがありますが、相談率は増加傾向にあり、3～4か月児乳児相談は25年度には9割を超えています。

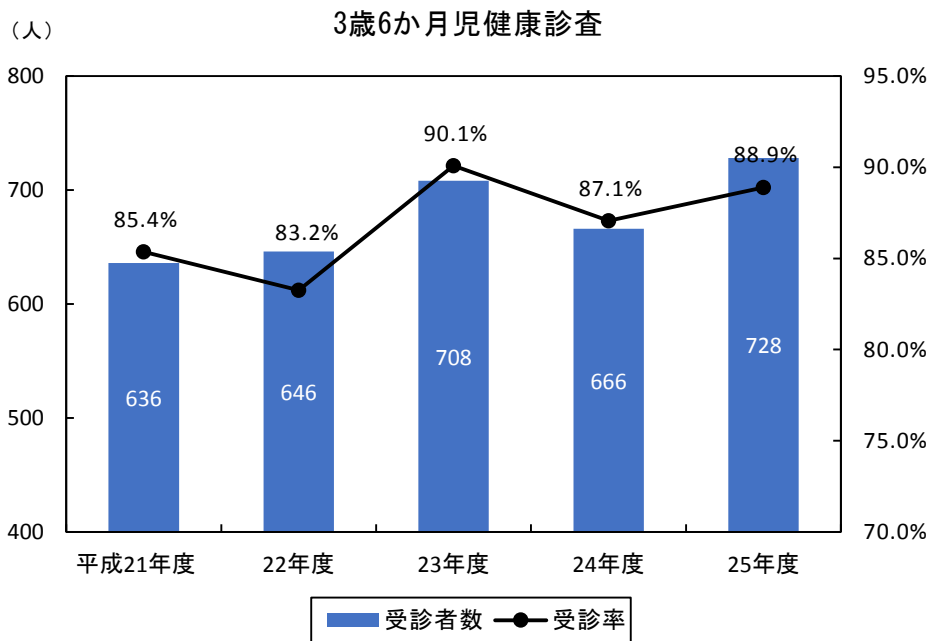


＜1歳6か月児健康診査、2歳6か月児歯科健康診査、3歳6か月児健康診査＞

1歳6か月児健康診査は受診率が高く、9割を超えています。2歳6か月児歯科健康診査は、他の健康診査に比べやや受診率が低くなっています。

また、3歳6か月児健康診査は年度によって受診率にばらつきがあるものの、ここ数年は約9割が受診しています。





資料：健康増進課

2. 現行計画の達成状況

「四街道市こどもプラン(後期計画)」で数値目標を設定した事業の達成状況は以下の通りです。

区分	単位	目標値	実績値	達成度	
		平成26年度	平成25年度		
通常保育事業	定員数 設置か所数	749人 8か所+分園1か所	812人 9か所+分園1か所	達成	
延長保育事業	定員数 設置か所数	749人 8か所+分園1か所	812人 9か所+分園1か所	達成	
病児保育事業	定員数 設置か所数	4人 1か所	0人 0か所	未達成	
病後児保育事業	定員数 設置か所数	4人 1か所	4人 1か所	達成	
こどもルーム事業	設置か所数	12校14か所	11校13か所	未達成	
一時預かり事業	定員数 設置か所数	50人 5か所	59人 6か所	達成	
子育て支援センター事業	設置か所数	4か所	7か所	達成	
ファミリー・サポート・センター事業	設置か所数 会員数	1か所 650人	1か所 967人	達成	
パパ・ママルームの土日曜開催	開催回数	6回/年	6回/年	達成	
2、3歳児ひよこ教室（四街道公民館）	実施回数	7回	1回	未達成	
2歳児子育て教室（千代田公民館）	実施回数	10回	9回	未達成	
乳幼児なかよし教室 （現：3歳児レクリエーション教室 旭公民館）	実施回数	5回	7回	達成	
乳 幼 児 健 康 診 査 ・ 相 談	4か月児相談	受診率	85.0%	93.3%	達成
	8か月児教室		75.0%	78.0%	達成
	1歳6か月児健診		95.0%	95.1%	達成
	3歳6か月児健診		85.0%	88.9%	達成
「すくすくネット」の充実	登録団体数	30団体	—	未達成	
2歳6か月児歯科健康診査	受診率	75.0%	76.8%	達成	
むし歯のない幼児の割合	3歳児の割合	75.0%	85.5%	達成	
幼児歯科健康教育	実施回数	10回/年	13回/年	達成	
事故防止方法についての知識の普及	実施人数	580人	686人	達成	
青少年健全育成推進大会	参加人数	800人	683人	未達成	
思春期保健事業の推進	実施回数	2校	3校	達成	
小さな子どもとふれあう機会の提供	開催回数	6回/年	0回	未達成	
こどもルームでの障害のある児童の受け入れ	—	全ルーム	全ルーム	達成	
「こども110番の家」の充実	設置軒数	3,000軒	2,553軒	未達成	
（こどもルームでの）避難訓練の実施	実施回数	2回/年	2回/年	達成	

3. アンケート調査による主な結果概要

(1) 調査の目的

本市では、本計画を策定するに先立って、市民の子育てに対する意識や意向などを把握するとともに、今後の子育て支援に関する基礎資料を得ることを目的に市内在住の就学前児童を持つ保護者 1,000 人（有効回収数 635 人）、小学生を持つ保護者 1,000 人（有効回収数 591 人）を対象にアンケート調査を実施しました。

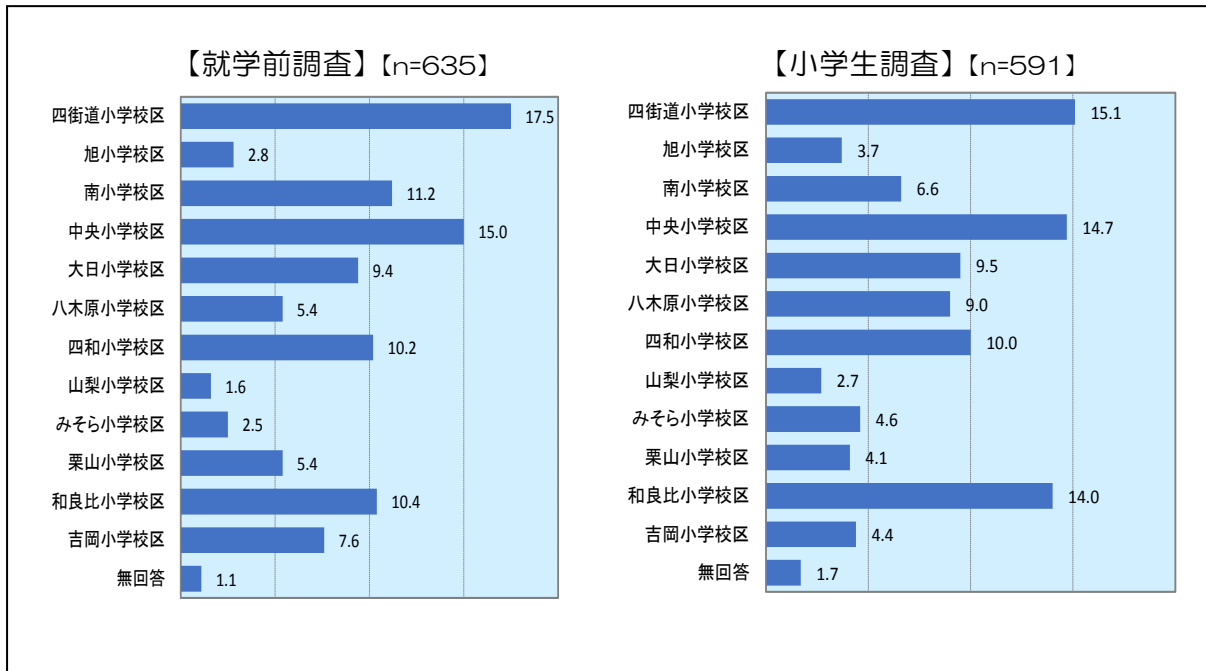
(2) 調査の設計

	四街道市子育て支援に関するアンケート調査（就学前児童）	四街道市子育て支援に関するアンケート調査（小学生）
調査対象	四街道市内に居住する就学前児童を持つ保護者	四街道市内に居住する小学生を持つ保護者
標本数	1,000人	1,000人
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出法	
回収数(率)	635人（63.5%）	591人（59.1%）
調査方法	郵送配布、郵送回収	
調査期間	平成25年11月29日～平成25年12月13日	

① 回答者のプロフィール

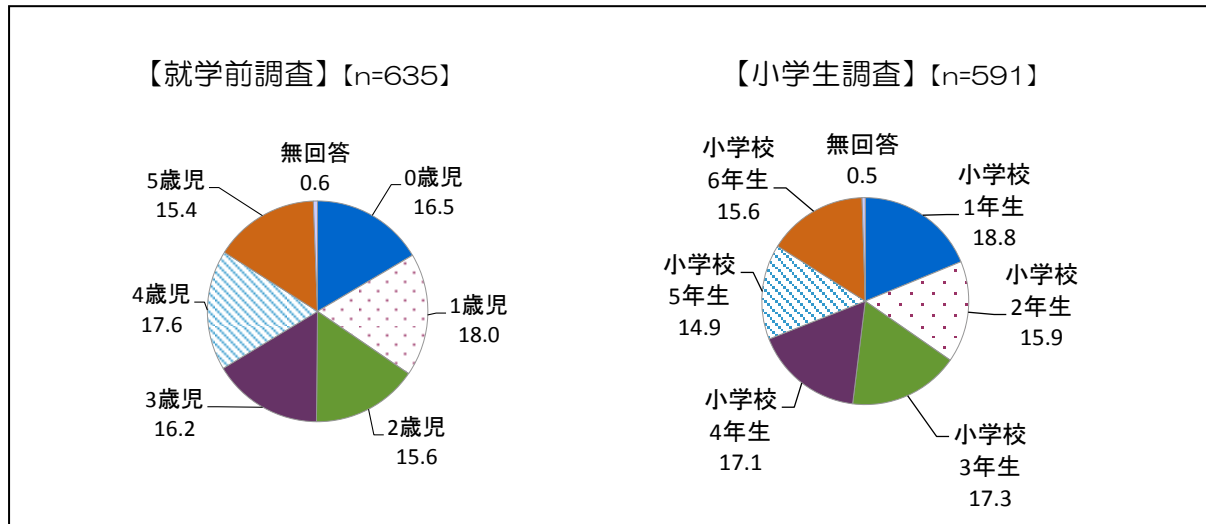
〈居住地区〉

(単位：%)



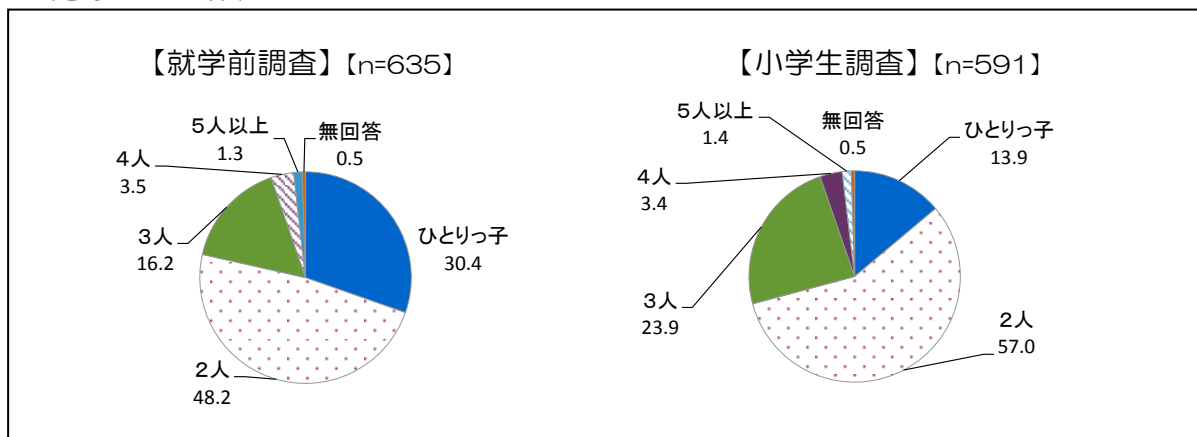
〈子どもの生年月日 (学年齢)〉

(単位：%)



〈きょうだい数〉

(単位：%)

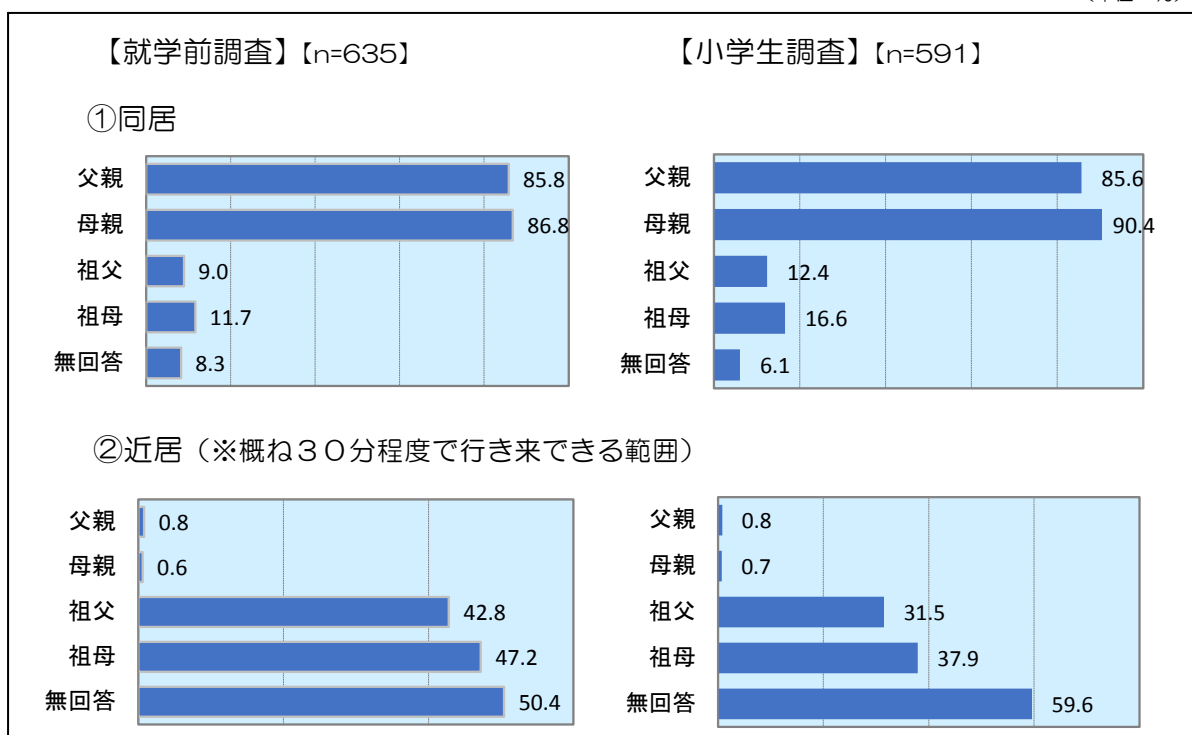


(3) 調査結果の分析

○きょうだいの人数は、就学前、小学生とも「2人」が最も高くなっています。また、就学前では「ひとりっ子」が2番目に高いのに対し、小学生では「3人」が2番目に高くなっています。

〈家族の同居・近居の状況〉

(単位：%)

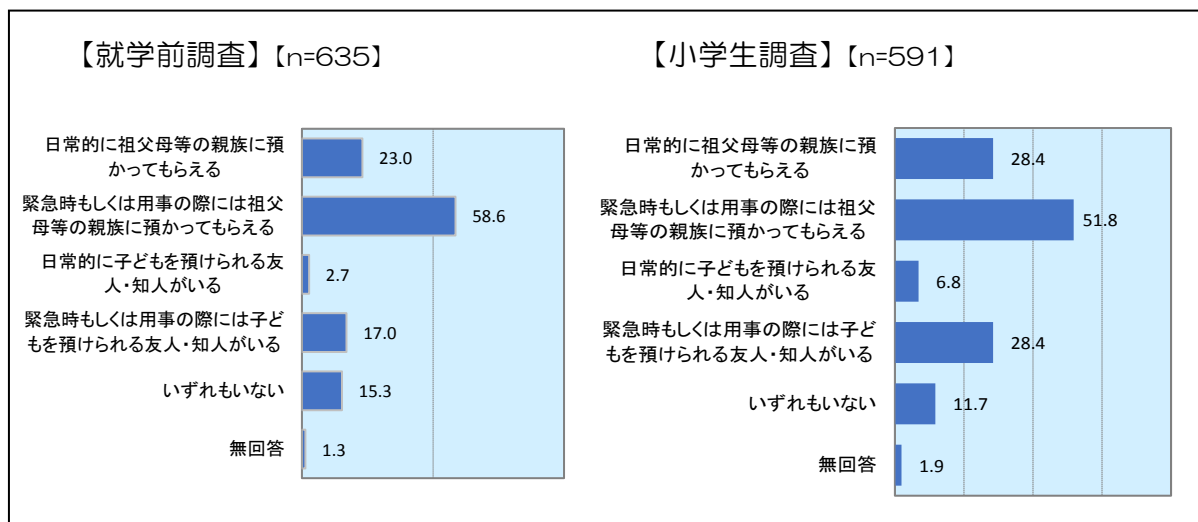


○家族の同居の状況では、就学前、小学生とも「父母同居」は9割近くを占めましたが、祖父母の同居は1割程度にとどまっています。祖父母の同居割合は就学前の方が小学生より低くなっています。（無回答には「近居者がいない」保護者も含まれます）

近居の状況では、就学前では祖父母との近居は4割程度みられますが、小学生では3割程度と就学前に比べて低くなっています。

〈日頃のサポートの状況〉

(単位：%)

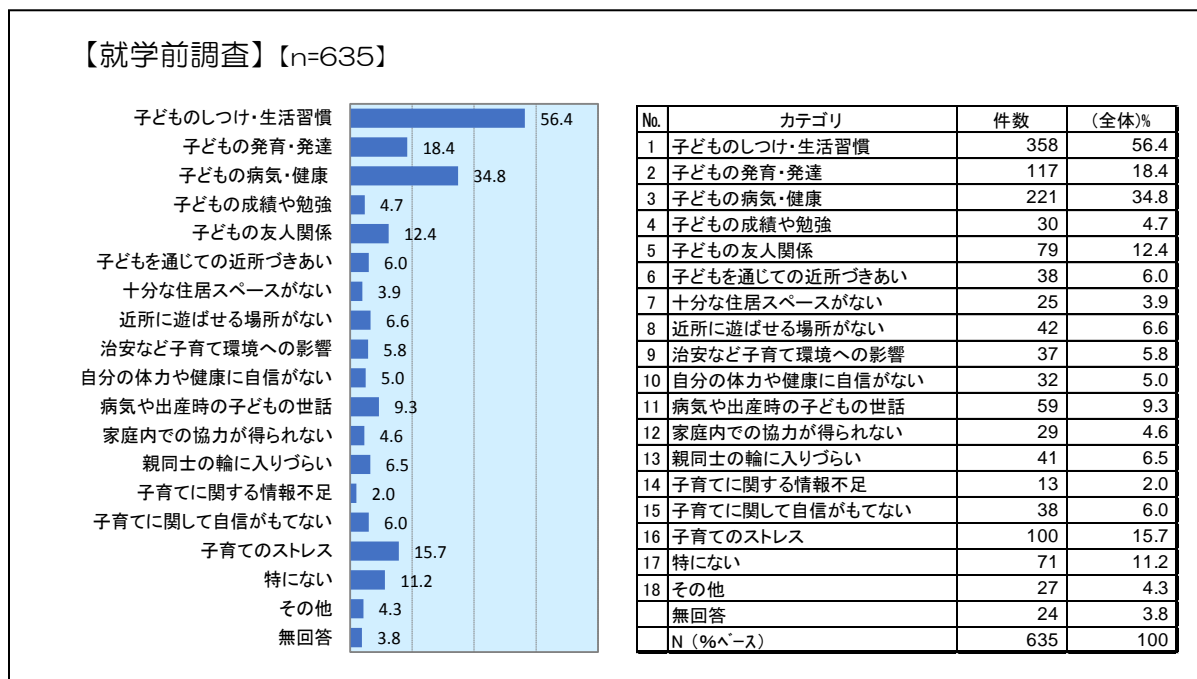


○日頃のサポートの状況では、就学前、小学生とも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」が最も高くなっています。「緊急時もしくは用事の際には子どもを預けられる友人・知人がいる」では、就学前より小学生が高くなっています。

一方、「いずれもない」は、就学前では15.3%、小学生でも11.3%となっています。

〈子育てをするなかで悩んだり不安に感じたりすること〉

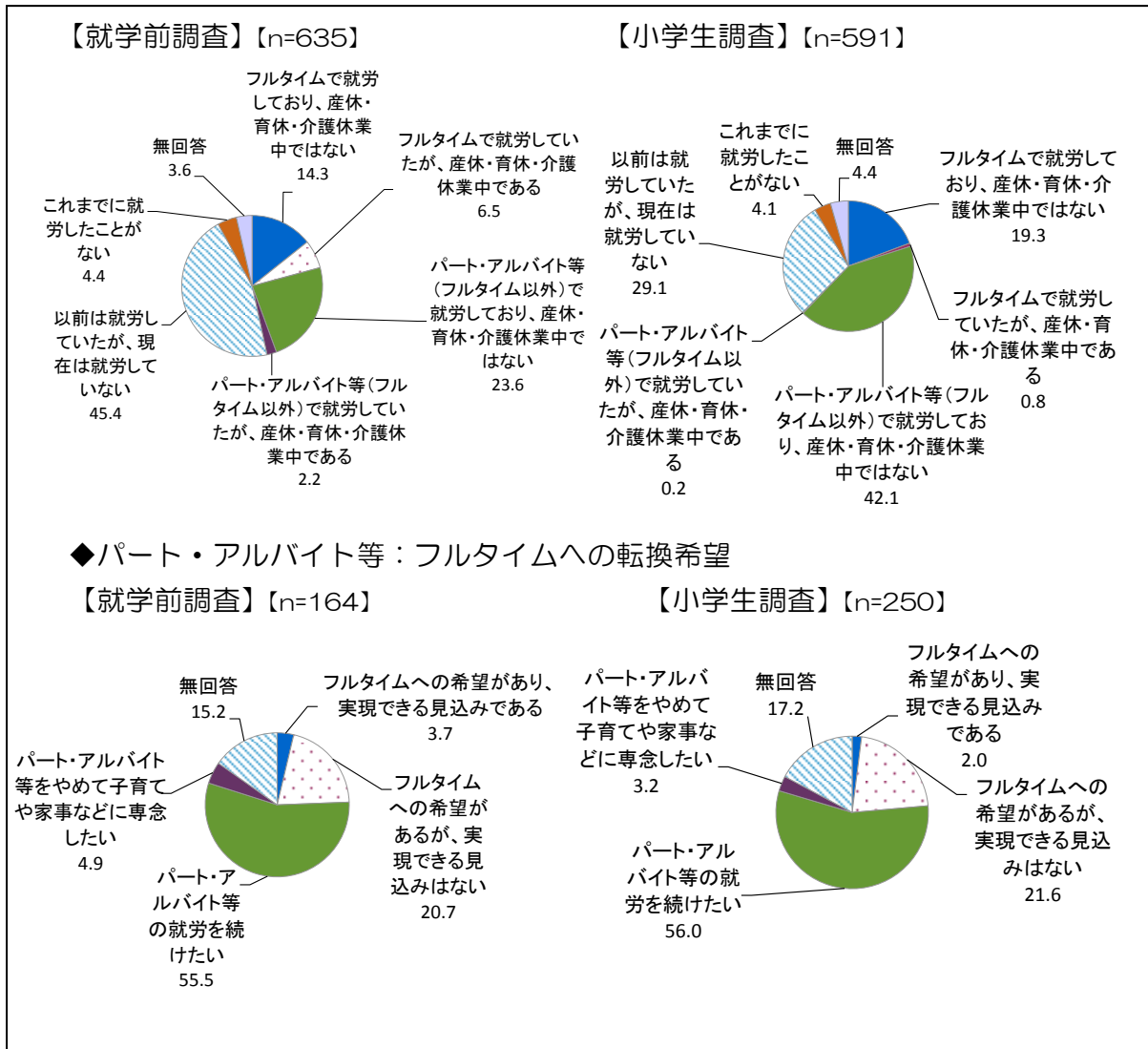
(単位：%)



○子育てをするなかで悩んだり不安に感じたりすることは、「子どものしつけ・生活習慣」が56.4%と最も高く、次いで「子どもの病気・健康」が34.8%、「子どもの発育・発達」が18.4%、「子育てのストレス」が15.7%などとなりました。子どもの生活習慣や健康、子育てしている方自身に関することが上位となっています。

① 親の就労状況
 〈母親の就労状況〉

(単位：%)

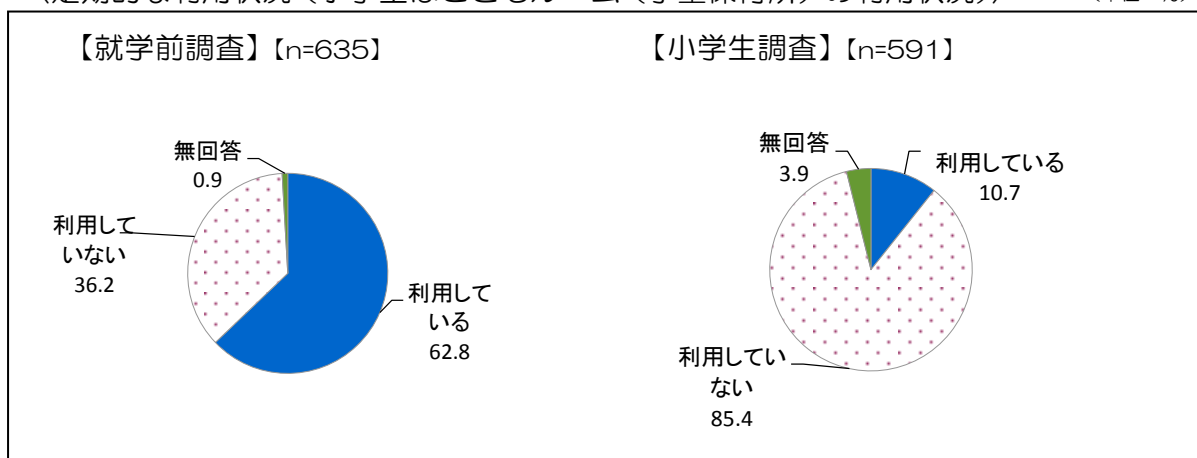


○母親の就労状況では、就学前では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が最も高く、小学生では「パート・アルバイトで就労」が最も高くなっています。フルタイムへの転換希望は、就学前、小学生とも2割程度にとどまり「パート・アルバイトを続けたい」が半数を超えています。

② 教育・保育事業

〈定期的な利用状況（小学生はこどもルーム（学童保育所）の利用状況）〉

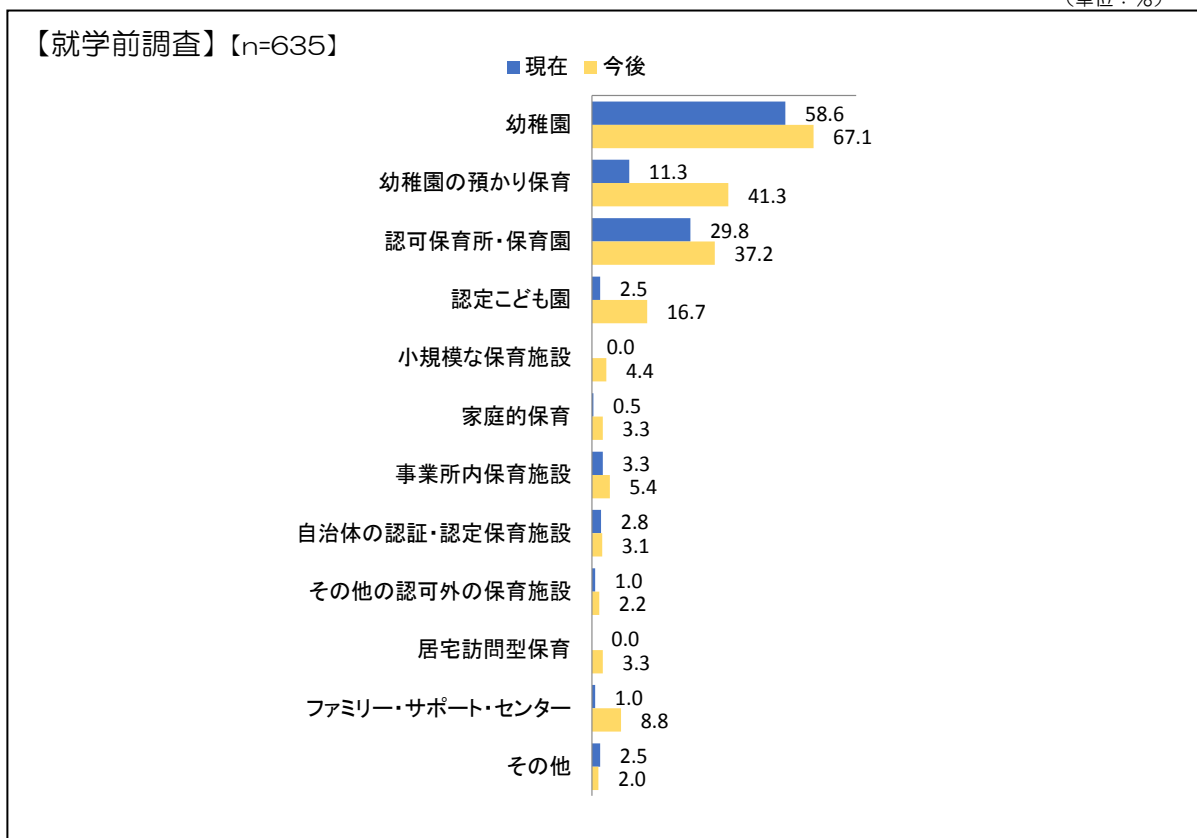
（単位：％）



○幼稚園・保育所などの教育・保育事業の利用状況は、就学前では「利用している」が約6割となっています。また、小学生のこどもルームの利用状況では「利用していない」が8割を超えています。

〈定期的にご利用したい教育・保育事業（就学前児童のみ）〉

（単位：％）

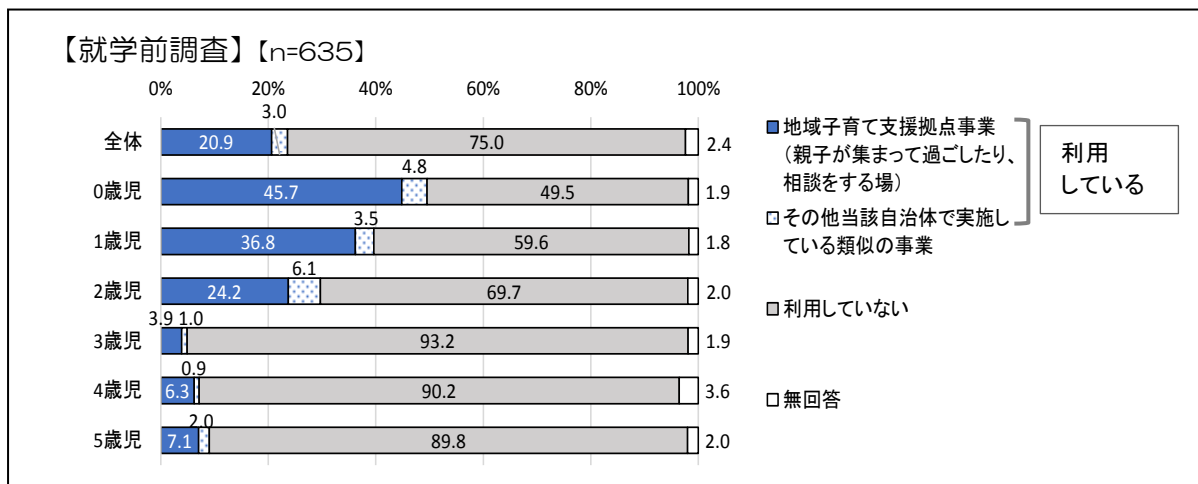


○現在利用している、利用していないに関わらず「定期的にご利用したい」教育・保育事業は、「幼稚園」が最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」、「認可保育所・保育園」などとなっています。「幼稚園の預かり保育」では、現在（11.3％）よりも今後（41.3％）が特に大きくなっています。

③ 地域子育て支援拠点事業

〈年齢別の利用状況〉

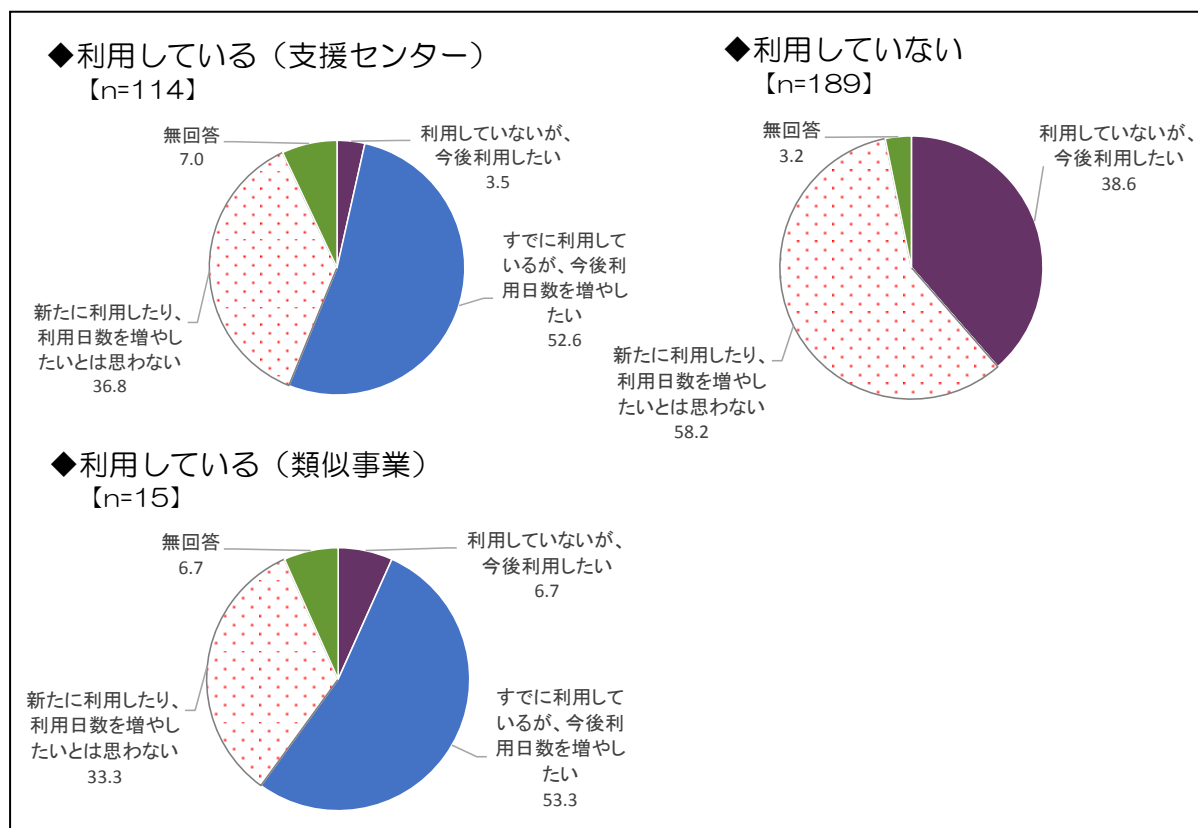
(単位：%)



○地域子育て支援拠点事業について年齢別に利用状況を見ると、「利用している」は0歳児が最も高く、0～2歳児までが3割を超えています。

〈現在の利用状況からみる今後の利用希望（0～2歳）〉

(単位：%)

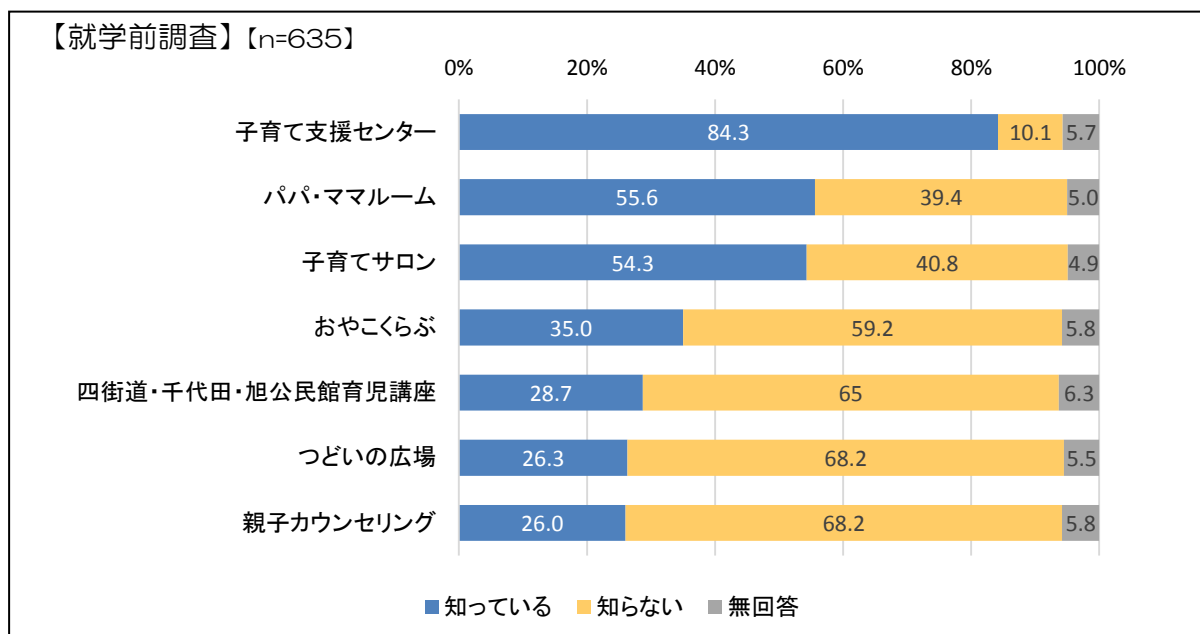


○現在の利用状況別に今後の利用希望（0～2歳児のみ）をみると、現在「利用している」と回答した保護者で「今後利用日数を増やしたい」は半数強、現在「利用していない」と回答した保護者で「利用したいとは思わない」は6割弱となりました。

④ 子育て支援サービス

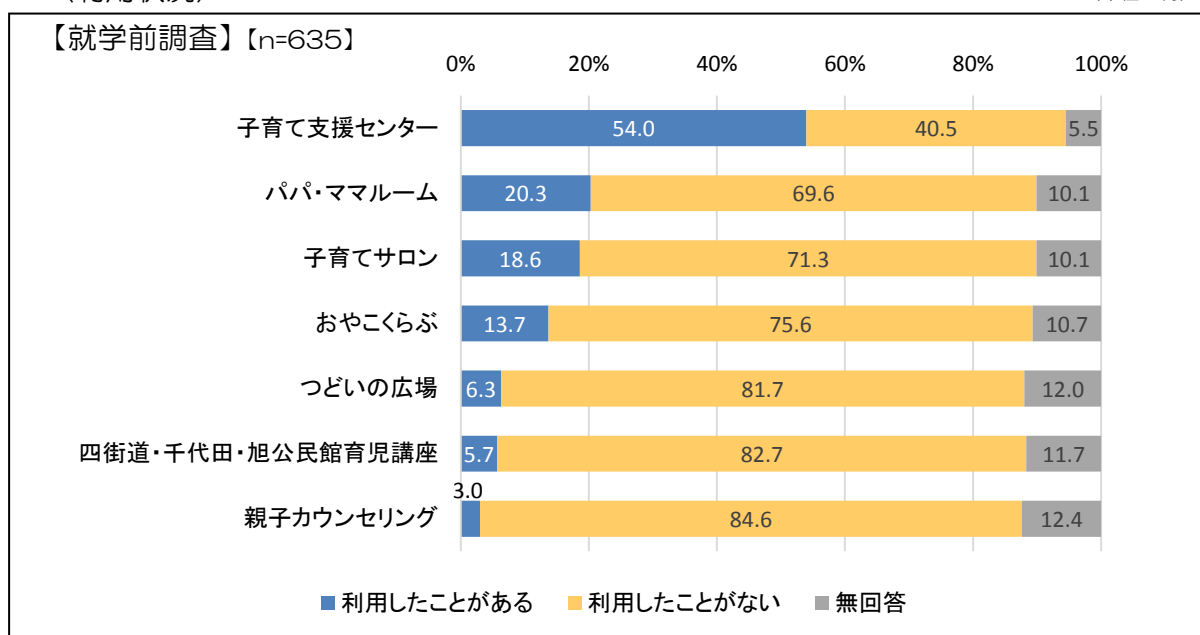
〈認知度〉

(単位：%)



〈利用状況〉

(単位：%)

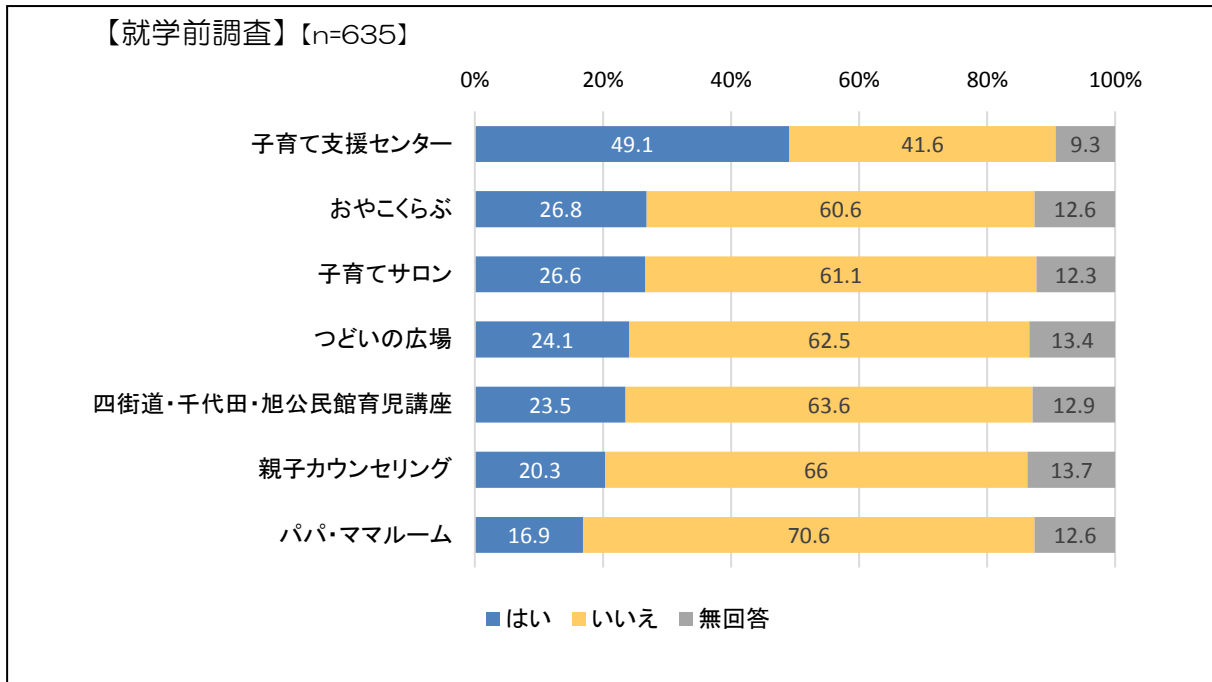


○子育て支援サービスの認知度は、「子育て支援センター」が 84.3%と最も高く、次いで「パパ・ママルーム」が 55.6%、「子育てサロン」が 54.3%と半数を上回りました。「育児講座」や「つどいの広場」、「親子カウンセリング」の認知度は3割弱にとどまりました。

○子育て支援サービスの利用状況は、「子育て支援センター」のみ 54.0%と半数を上回りました。総じて、「利用したことがある」と回答した比率は低くなっています。

〈利用意向（今後利用したい）〉

（単位：％）

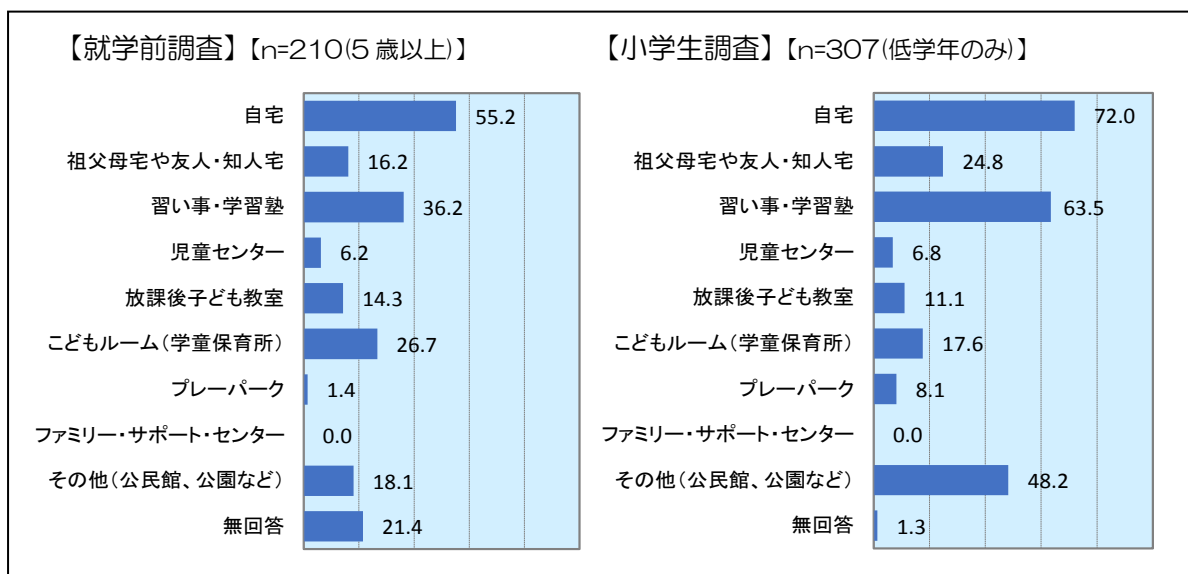


○子育て支援サービスにおける今後の利用意向は、「子育て支援センター」が49.1%と最も高く、約半数が利用したいとなっており、次いで「おやくらぶ（児童センターにおける子育て支援事業）」が26.8%、「子育てサロン」が26.6%などとなっています。

⑤ 小学校就学後の放課後の過ごし方

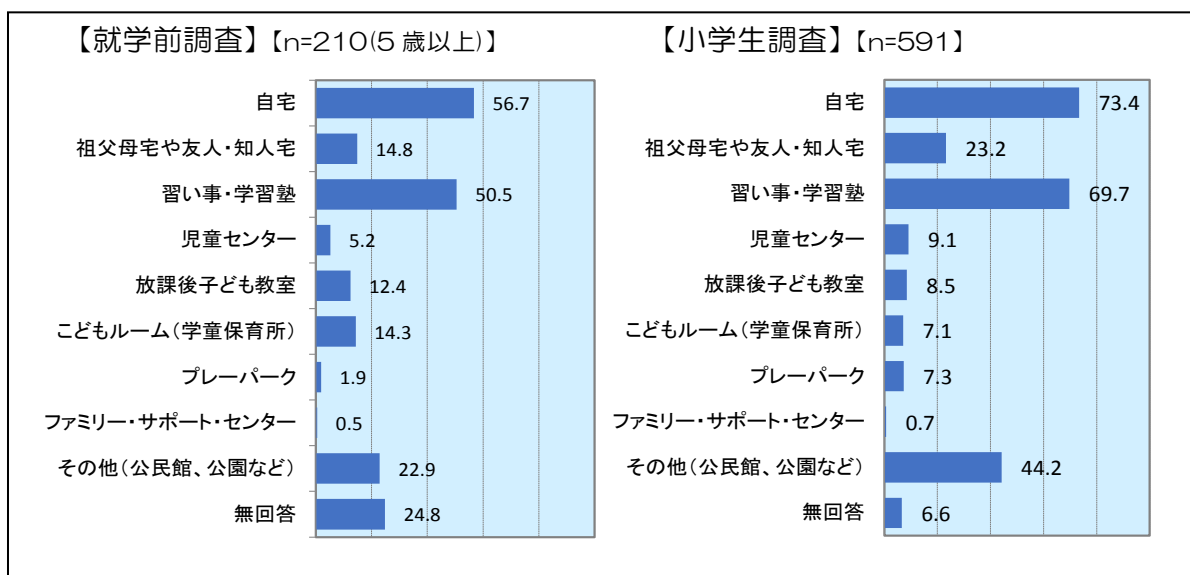
〈放課後に過ごさせたい場所（低学年）〉

(単位：%)



○小学校就学後（低学年）の放課後に過ごさせたい場所は、就学前・小学生ともに「自宅」が最も高く、「習い事・学習塾」が2番目に高くなっています。「こどもルーム（学童保育所）」は就学前（5歳以上）では26.7%に対して、小学生では17.6%にとどまっています。

〈放課後に過ごさせたい場所（高学年）〉

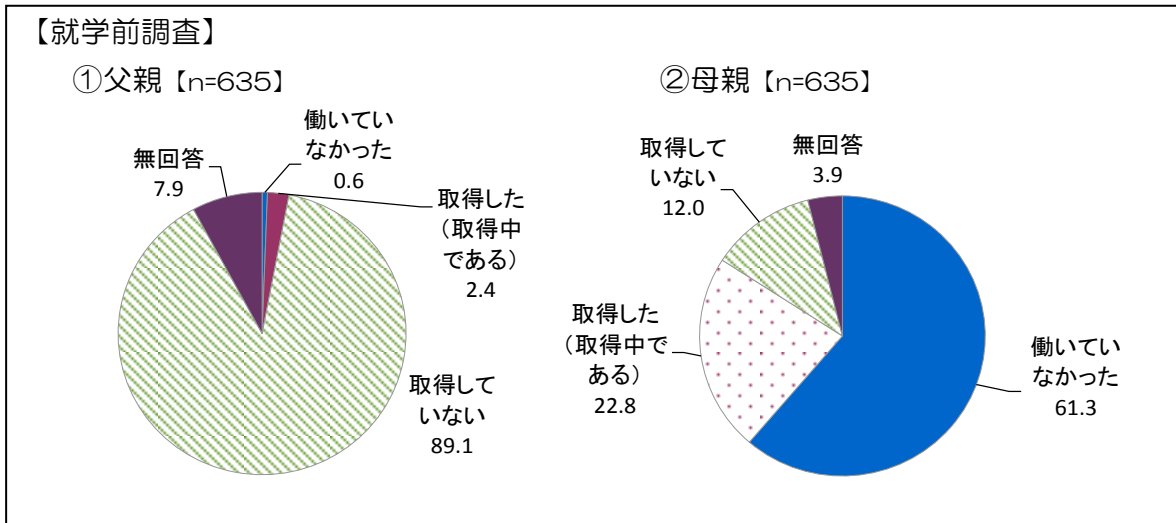


○小学校就学後（高学年）の放課後の過ごさせたい場所は、就学前・小学生ともに「自宅」が最も高く、次いで「習い事・学習塾」と、低学年と同様となっています。「こどもルーム（学童保育所）」は就学前（5歳以上）で14.3%、小学生では7.1%と、低学年よりさらに低くなっています。

⑥ 育児休業制度(就学前児童のみ)

〈育児休業取得状況〉

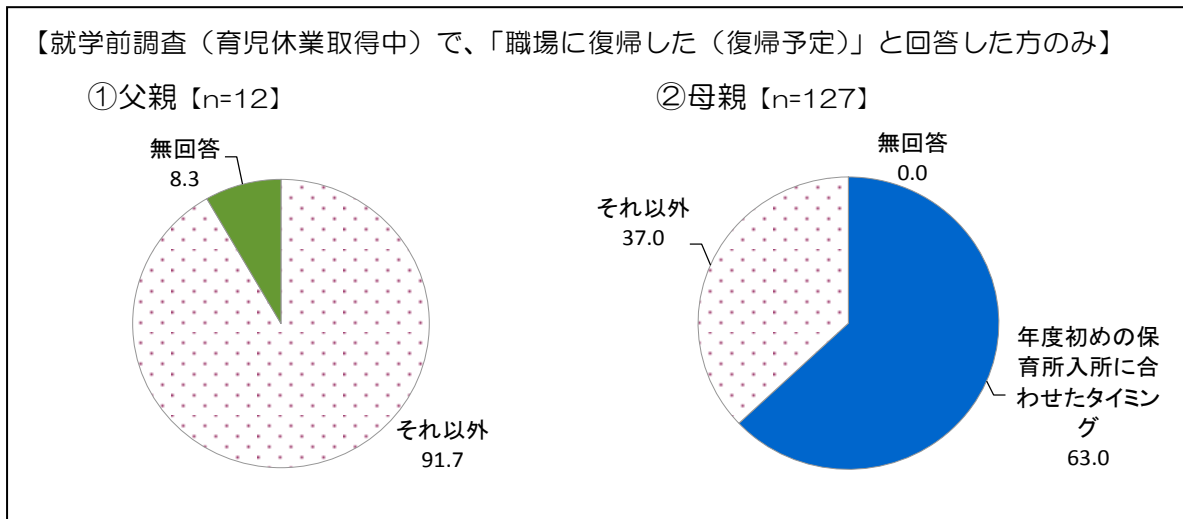
(単位：%)



○育児休業制度の取得状況を見ると、「取得した(取得中)」は父親が 2.4%、母親が 22.8%と父親は少数にとどまっております、「取得していない」は父親が 89.1%、母親が 12.0%となっています。

〈職場に復帰した時期〉

(単位：%)

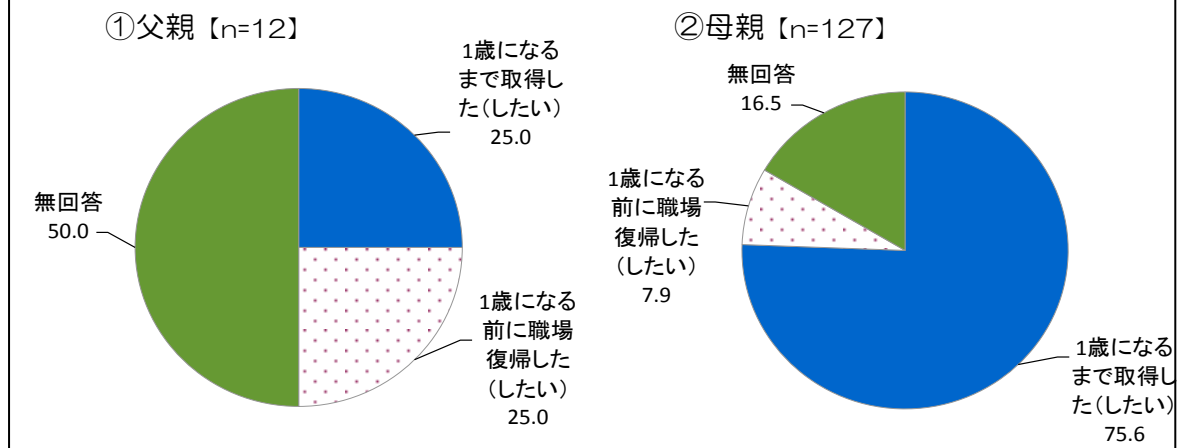


○育児休業から職場に復帰した(したい)時期は、「年度初めの保育所入所に合わせたタイミング」は母親が63.0%と半数を超えていますが、父親は該当者がいませんでした。「それ(年度初めの保育所入所に合わせたタイミング)以外」は、父親が 91.7%、母親が37.0%となっています。

〈1歳になるまでの育児休業取得意向〉

(単位：%)

【就学前調査（育児休業取得中）で、「職場に復帰した（復帰予定）」と回答した方のみ】

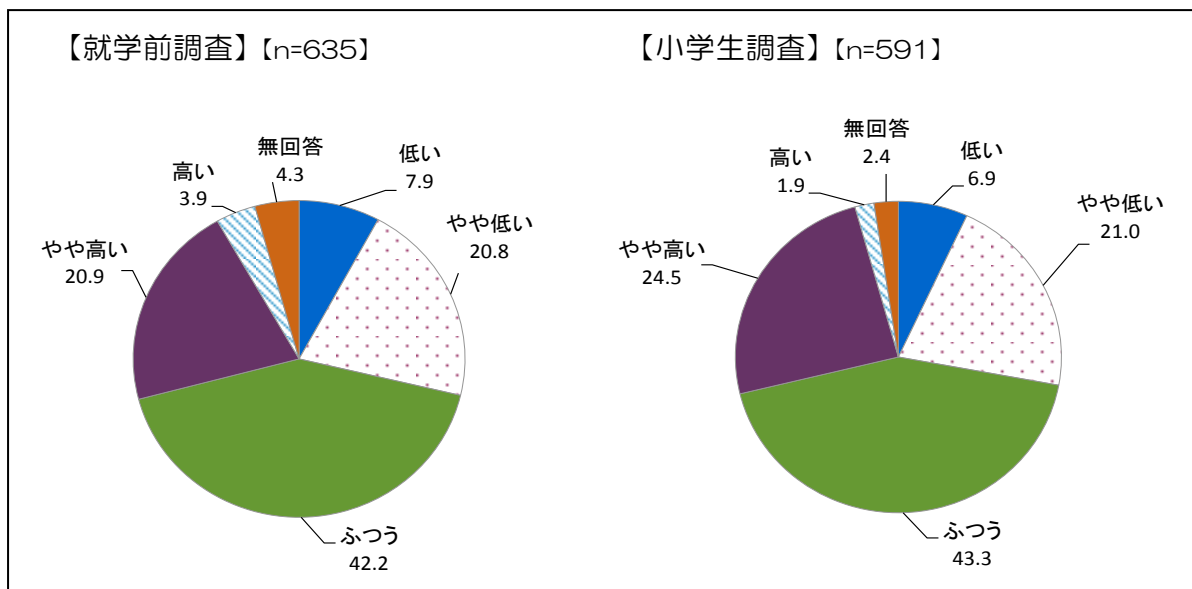


○育児休業取得後に職場に復帰した(したい)保護者と育児休業中の保護者において、1歳になるまでの育児休業取得意向を見ると、「(必ず預けられる保育所等があれば)1歳になるまで取得した(したい)」は母親が75.6%、父親が25.0%、「1歳になる前に職場復帰した(したい)」は母親が7.9%、父親が25.0%となっています。

⑦ 行政サービス

〈住まいの地域における子育て支援や環境の満足度〉

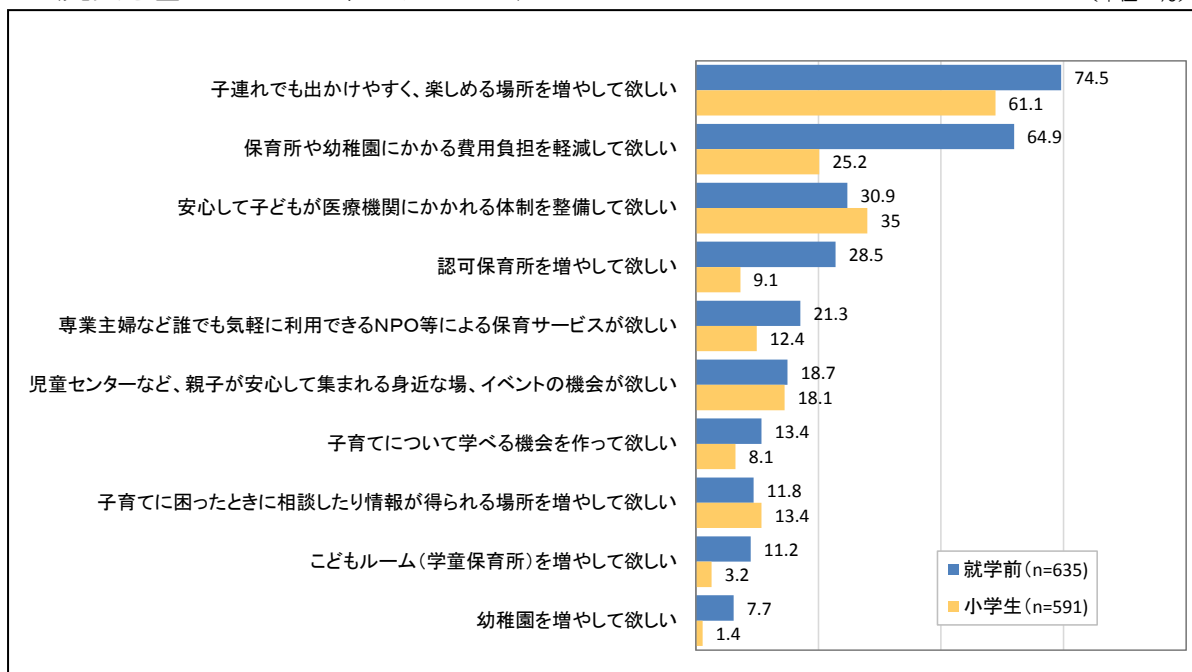
(単位：%)



○住まいの地域における子育て環境や支援への満足度は、就学前、小学生とも、満足度が「低い」と「やや低い」を合わせた『低い』が、満足度が「高い」と「やや高い」を合わせた『高い』を上回っており、満足度は総じて低くなっています。

〈充実を図ってほしい市のサービス〉

(単位：%)



○充実を図ってほしい市のサービスでは、「子連れでも出かけやすく、楽しめる場所を増やして欲しい」が就学前、小学生とも最も高くなっています。就学前では「保育所や幼稚園にかかる費用負担を軽減して欲しい」も6割を超えています。

4. 座談会・意見交換会の意見

(1) 調査の目的

四街道市内に住む母親などから、子育て環境における市の魅力や改善点などについて当事者の具体的な意見を聞き、本計画の実効性を高めることを目的に、「子育て座談会」および「意見交換会」をそれぞれ2回ずつ、合計4回実施しました。

(2) 実施概要

《座談会》

日 時	平成26年7月1日 10:30～11:30
場 所	大日保育園 子育て支援センター「ひまわり」
参 加 者	子どもを持つ母親 6名

日 時	平成26年7月2日 13:00～14:30
場 所	中央保育所 子育て支援センター「すずらん」
参 加 者	子どもを持つ母親 5名

《意見交換会》

日 時	平成26年7月13日 15:00～17:00
場 所	四街道市福祉センター3階会議室1
参 加 者	小学生の子どもを持つ母親など 17名

日 時	平成26年7月14日 10:00～11:30
場 所	四街道市福祉センター3階会議室1
参 加 者	幼稚園児の子どもを持つ母親など 11名

(3) 主な意見

○四街道市の良いところ

〈環境〉

- ・ 都会でもなく田舎でもなく、子育てする環境としてちょうど良い。また、千葉市に近く、都内への通勤も可能で、近隣にはスーパーなど商業施設も集約されており、住環境としても良い。

〈医療・福祉〉

- ・ 子どもに対する医療費補助が手厚い（中学卒業まで保険診療の医療費無料）。
- ・ 夜間に子どもが体調を崩すことが多く、24時間救急ダイヤルは助かる。

〈相談体制〉

- ・ 市役所の保健師に相談した際、良いアドバイスをいただいた。

〈遊び場〉

- ・ わろうべの里はイベントが充実しており、食事スペースや図書室などがきれいで使いやすく、雨の日でも1日過ごせる場所として魅力的。
- ・ 面積、人口の割には、公園など子どもを連れて遊ぶ場所が多い。

〈情報〉

- ・ 月2回投函される「市政だより」で、イベント情報がある程度把握できる。

○四街道市の課題・改善点、市への要望等

〈子育て支援センター〉

- ・ 歩いていけるとところに子育て支援センターが欲しい。
- ・ 横浜市にある365日24時間対応の緊急時に子どもを預けられる施設が羨ましい。

〈遊び場〉

- ・ 歩いて行ける範囲に、公園など子どもが安心して遊べる場所が欲しい。
- ・ 公園に、遊具、芝生、時計、きれいなトイレ（オムツ交換台）など整備してほしい。
- ・ 魅力的な遊び場もあるが、立地に偏りがあり、地域格差を感じる。
- ・ 未就学児の施設は多いと思うが、小学生だけで遊べる場所が市内に満遍なくほしい。
- ・ 図書館の蔵書充実や公園整備など、市民の楽しめる場所にお金をかけてほしい。

〈公共施設〉

- ・ 子育て支援センターやわろうべの里が徒歩圏内にないので、車もしくは公共交通機関（バス）の利用が不可欠だが、バスが通っていないか、通っていても本数が少ないため、巡回バス「ヨッピー」のルートに入れてほしい。
- ・ 四街道駅は、北口側しかエレベーターがなくて不便。
- ・ 道路の舗装状態が悪く、ベビーカーだと通りにくい。

〈医療・福祉〉

- ・ 休日や夜間の救急診療が不便（佐倉まで行かなければならない）。
- ・ 子どもが多いと予防接種の費用負担も大きいので、より手厚い支援があるとありがたい。
- ・ 健診の待ち時間が長い。

〈相談体制〉

- 子育て支援センターなどへのアクセスが悪いため、行き場がなく引きこもってしまふ母親もいるのではないか。そのような人のためにも、保健師の訪問回数を増やすなど行政サイドから積極的にアプローチした方がよい。
- かしこまらず、何かのついでに気軽に相談できる場が必要。
- 子育て支援センターに定期的に保健師に来てほしい。
- インターネットで相談し、回答がもらえる仕組みがあるとよい。

〈情報〉

- 「市政だより」はイベントを一覧できるが、記載が単調で情報量が少ない。
- ホームページなど1か所であらゆる情報を収集できるものが欲しい。
- メールマガジンのように、こちらから情報を取りにいかなくても自動的に配信される仕組みがあると便利。

〈幼稚園〉

- 働いている母親で、子どもを保育所に預けたくても空きがなく、やむなく幼稚園に入れているケースも少なくない。幼稚園の預かり時間をあと1～2時間延長してもらえると、保育所と同じような需要がある。
- 幼稚園ごとに特色があるので、幼稚園探しのときに一覧があると役立つ。

〈こどもルーム〉

- 子どもが増えている地域で、待機児童の発生や指導員の確保が心配。
- こどもルームの安全性と指導員の質を確保してほしい。
- こどもルームの開所時間を早めてほしい。

〈その他〉

- 座談会を定期的で開催し、母親同士で情報交換・意見交換する機会を作してほしい。
- 古い団地の建つ地域では小学校が1クラスしかなく、そのまま持ち上がりなので、コミュニケーションの面で心配。

5. 子ども・子育てにおける本市の課題

アンケート調査結果や座談会・意見交換会での意見をテーマ別に分類し、本市の現状を踏まえて整理したところ、以下の8つの点が、今後対応すべき課題として見えてきました。

【アンケート調査・座談会・意見交換会の意見集約】

	アンケート(就学前)	アンケート(小学生)	アンケート自由意見	座談会(子育て支援センター)	意見交換会(幼稚園・子どもルーム)	課題
保育サービス	保育所を利用する割合が高い地域は南小学校区、中央小学校区 育児休業から復帰するタイミングは6割が「年度初めに合わせて」		保育所に入りづらい保育所が少ない 病児保育がほしい(10件) 保育所が少ない(鷹の台に欲しい)			ニーズに対応した保育サービス量の確保
相談	育児で悩んでいることは「しつけ・生活習慣」が56%でトップ 次いで病氣・健康 子育てについて相談できる人がいない割合は5% 相談先として子育て支援センターを選んだのは1割	育児で悩んでいることは「しつけ・生活習慣」が57%でトップ 次いで子どもの友人関係、成績	いじめがあった時等に気軽に相談できる場所がほしい 小児救急が遠い 子育てに関する情報をわかり易く発信してほしい	気軽に相談できる場が必要(わざわざ行くのではなく「ついでに」) インターネットで相談して返事がもらえる仕組みがあると良い イベントを一覧にするなどわかりやすい情報発信	24時間相談ダイヤルは助かる 市役所の保健師に良いアドバイスもらった 子育て支援センターに保健師等専門職に定期的に来てほしい	気軽に相談できる体制の充実
幼稚園	幼稚園の預かり保育を利用する割合が高いのは大日小学校区と南小学校区 希望する教育・保育事業では幼稚園の預かり保育が最も期待が高い 長期休暇中の幼稚園の預かり保育を希望する割合は55%(幼稚園利用者)		(負担の少ない)公立幼稚園がほしい 幼稚園で夏休みも預かってもらいたい(働きたい)	預かり保育の時間を延ばしてほしい(保育所がはいれないのなら)	幼稚園ごとに特色があるので幼稚園の一覧があると役立つ	多様な働き方に対応した保育サービスの充実
経済的負担	充実してほしいサービスで「費用負担の軽減」は2番目に高い		保育料、幼稚園の費用負担の軽減 医療費助成は大変ありがたい		中学生まで医療費無料は助かる	経済的負担軽減策の継続
子育て支援全般	子育て支援サービスは0歳、1歳児を持つ保護者の利用ニーズが高い 子育て支援サービス全体の満足度は「高い」を「低い」が上回っている 特に満足度が低い地域は大日小学校区(42%)と吉岡小学校区(33%) 満足度が高いのは四和小学校区(32%)	子育て支援サービス全体の満足度は「高い」を「低い」がやや上回っている 特に満足度が低い地域は吉岡小学校区(42%)とみそら小学校区(37%) 満足度が高いのは四和小学校区(46%)	図書館を充実してほしい	支援センターを増やしてほしい(歩いて行ける距離) 座談会を定期的に実施して意見を聞いてほしい 公園など遊びに行ける場所の整備 子どもと遊び、お弁当も食べられる場所がほしい		利用者ニーズを踏まえた地域子育て支援拠点の充実
子どもルーム	小学校低学年での子どもルーム利用希望者割合は27%	低学年で子どもルーム利用希望は17.6% 高学年では利用希望は7.1% 実際の利用は1割	子どもルームの保護者の負担が大きいため軽減してほしい 長期休業中の開所時間を早くしてほしい 保育所の利用時間との隔たりが大き		児童数が増加しているが、指導員の確保が不安 児童数が増えたらルームも増やしてほしい 夏休みなどの開所時間を早めてほしい 子どもルームの安全性と指導員の質を確保してほしい	子どもルームの充実
遊び場	充実してほしいサービスは「子連れでも出かけやすい場所を増やす」がトップ 特に雨でも遊べる場所が必要	充実してほしいサービスは「子連れでも出かけやすい場所を増やす」がトップ 特に雨でも遊べる場所が必要	球技のできる公園が欲しい(小学生) 放課後利用できる児童センターが身近なところに欲しい 子どもが楽しく安全に遊べる公園の整備 子どもが楽しく安全に遊べる公園の整備	雨の日に子どもが行ける場所が少ない 公園など遊びに行ける場所の整備(芝生など) 子ども同士で遊びに行ける場所が少ない	公園の遊具が減っている(遊具がほしい) 子どもと利用できる施設(児童センターやわらわへの里)は評価できるが規模が小さい 小学生が利用できる施設が市内全体にあるとよい 図書館や公園など市民が楽しめる場所にお金を使ってほしい	放課後過ごせる場・遊び場の充実
まちづくり			ベビーカーでも出かけやすい道路・歩道整備 駅にエレベーターがほしい 公共機関を巡回するバス路線の充実 道路(通学路)の安全確保	車がないと子育て支援センターを利用できない。ヨッピーで回れると良い 駅のエレベーターや歩道整備 市内をバスで移動できるという(公共施設間の移動など)	都会でもなく田舎でもなくちょうど良い住環境 子育て支援センター等へヨッピーで行けるようにしてほしい 道路の舗装状態が悪く、ベビーカーで通りづらい	子ども・子育てを意識したまちの整備

(1) ニーズに対応した保育サービス量の確保

- ・ 児童数の増減にかかわらず、保育ニーズは増加傾向にあることから、本市においては、更なる保育サービスの確保が必要です。
- ・ 特に、本市は住宅開発がおこなわれているため、若い世帯、子育て世帯の流入が見られ、数の上でも保育サービスの拡大が求められています。

(2) 気軽に相談できる体制の充実

- ・ 情報化の進展とともに、子育てに関する情報の多さに戸惑う保護者も見られます。
- ・ 保健師や保育士など専門家に相談したいニーズは高くなっています。
- ・ 「遊びに行つたついでに専門家にそれとなく相談したい」、「メールなどで相談し返事が欲しい」など、気軽に相談できる仕組みが求められています。
- ・ 相談内容が複雑化、多様化する傾向にあるため、ワンストップで受け付ける体制も必要です。

(3) 多様な働き方に対応した保育サービスの充実

- ・ 核家族化の進行や就労形態の多様化により、保育ニーズの増加と同時に多様なサービスが求められています。
- ・ 近年、新たな保育所等の開所が続いていますが、認可保育所の利用希望は依然として多く、待機児童数は増加しています。
- ・ 幼稚園を利用して就労したいという保護者もみられ、夏季等における長期休業期間の幼稚園における一時預かり（預かり保育）のニーズも高くなっています。
- ・ 保育サービスの充実により、働きたい人が働ける環境づくりが急務です。

(4) 経済的負担軽減策の継続

- ・ 逐次内容を充実した子どもの医療費助成は、子育て家庭の経済的負担の軽減に大きな効果をもたらしており、経済的支援を今後も継続していくことが必要です。

(5) 利用者ニーズを踏まえた地域子育て支援拠点（子育て支援センター）の充実

- ・ 地域子育て支援拠点（子育て支援センター）は雨の日でも子ども連れで利用できる場として利用ニーズは高く、身近な地域での開設が求められています。
- ・ 地域子育て支援拠点（子育て支援センター）では専任職員を配置していることから、気軽に相談できる場として、相談機能も期待されています。

(6) こどもルームの充実

- ・ 全小学校敷地内にこどもルームを配置していることは本市の強みでもあり、また、開設当初から6年生までの全学年を対象としていることが特徴です。
- ・ しかし、近年は、特に人口増加地域においてこどもルームの利用を希望する児童が増加しており、安全で安心して利用できる環境の確保が急務となっています。
- ・ 1か所あたりの規模の拡大や増設など、児童数に応じたこどもルームの整備が求められています。

(7) 放課後過ごせる場・遊び場の充実

- ・ 放課後子ども教室は市内の3か所で展開されていますが、継続して事業を実施するための人材確保が課題となっています。
- ・ 公民館での小学生対象の活動については1か所で展開されていますが、活動の周知と参加者の確保が課題となっています。
- ・ 小学生の遊び場として公園に対するニーズは高く、球技のできる公園など、利用しやすく楽しく過ごせる場が求められています。
- ・ 小学生が、安全にのびのび遊べる場や、雨の日でも遊べる場の確保が必要です。

(8) 子ども・子育てを意識したまちの整備

- ・ 一部の市街地においては広い歩道が確保されるなど、歩道の安全性は高まっているものの、多くの住宅地では歩道が確保されていなかったり、道路の段差が散見されます。
- ・ 小さな子ども連れでの移動にはベビーカーが欠かせないため、歩道や公共施設整備に対するニーズは高くなっています。
- ・ また、通学路の安全確保についても保護者のニーズは高くなっています。
- ・ まちづくり全体においても、子育て支援を意識した整備が求められています。

